

東京音楽大学リポジトリ

Tokyo College of Music Repository

18世紀ヨーロッパ器楽作品の様式研究方法試論：
ハイドンのクラヴィーア・トリオを例として

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 1983-01-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/656

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



18世紀ヨーロッパ器楽作品の様式研究方法試論

—ハイドンのクラヴィーア・トリオを例として—

横 田 みどり

序

- I. 伝承研究結果に基づく作品の位置づけ
 1. 真作性
 - 1.1 作品の真作性
 - 1.2 楽譜の信頼性
 2. 成立年代
- II. ハイドンのクラヴィーア・トリオの真作性と伝承による作曲年代
- III. 様式的考察の方法と手順
 1. ラルーによる方法論の枠組み
 - 1.1 観察のレベルと視点
 - 1.2 観察の手順
 2. 18世紀ヨーロッパの器楽作品を対象とする様式的考察の方法論
 - 2.1 予備知識
 - 2.2 観察と記述
 - 2.3 評価——様式的特徴の抽出
 - 2.4 比較——伝承と様式の総合比較考察
- IV. ハイドンのクラヴィーア・トリオの様式的考察
 1. cyclic level
 2. 各楽章の large-middle-small dimension
 3. 伝承と様式の総合考察

序

ある特定の地域、時代、人々の音楽の特徴を把握し、その位置づけを行なう場合、さまざまなアプローチの方法が考えられる。西洋音楽史の領域においては、作品としての概念が比較的明瞭であり、またそれが楽譜の形で伝承されてきたため、作品を一つの独立した対象として捉え、その内在的要素に注目する分析的アプローチが多く行なわれてきた。(註1) またその一方で、作品を支えている伝承についての文献学的なアプローチも進められている。

この2つの方向からのアプローチの相互関係について、ヨーゼフ・ハイドンの作品に関する伝承研究の基礎を確立したイェンス・ペーター・ラールセンは、次の3点を指摘した。第1に、様式研究は証拠づけられた伝承に基づいて行なわれた時に初めて意味をもつということ、第2に、伝承研究が客観的な基準の上に立つのに対して、様式研究は主観的な判断に基づいているということ、よって第3に、伝承研究の結果を優先し、それに基づいて様式研究を行なうのがより効果的であるということである。(註2) この考え方によれば、様式研究は常に伝承研究を基礎とし、伝承研究の上に成り立つものとして位置づけられる。

また様式研究については、ラールセンの指摘する通り、様式的な把握が窮極的には主観的な判断に依存しているために、一般的な方法論の確立されていないことが常に問題となってきた。そのために、多くの研究者が個別的な方法で研究を行なうという状態が続いている。しかし、同じ対象を研究する者どうしが情報を交換し、また多数の作品を対象として複数の研究者が共同研究を行なうために、様式研究に一般的方法論を確立し、研究結果の交換と総合を可能にすることは切望された課題の一つである。

対象が特定の文化内に限られている場合、その範囲内で有効な方法論に求められる一般的条件として次の6点があげられる。

1. 様式に対する基本的な捉え方、概念、観念が対象とする音楽（文化）に妥当であると認められること(註3)
2. 客観的、合理的に判断できる要素を基本的な判断基準としていること
3. 方法と手順が明示されていること
4. 対象の状況に応じて方法と手順の補足と細分化を行なえること
5. データとそのまとめを明示するために一定の表示法があること
6. データの付加、削除、置換をあとから行なうことができ、それによって結論の修正と変更が可能であること

ヤン・ララーは1970年に *Guidelines for Style Analysis* 「様式分析の手引き」(註4)を発表し、特に18世紀ヨーロッパの器楽作品の研究分野において上記の条件を満たす方法論を提示して、大きな貢献を果たした。(註5) 但し、同書では対象を18世紀のヨーロッパの器楽作品に限定せず、より一般的な方法論が提示されているため、対象を限定した場合にはさらに方法の精密化が必要となる。

本論は、ラールセンの考え方に基づいて伝承研究の前提のもとに様式研究を位置づけ、さらにララーの方法論を発展させて、18世紀ヨーロッパの器楽作品を対象とする様式研究の方法論の提示を試みたものである。(註6) ここではこの方法の妥当性の検証材料として、ハイドンのクラヴィーア・トリオをとりあげ、その考察結果を付した。

I. 伝承研究結果に基づく作品の位置づけ

1. 真作性 authenticity(註7)

1.1 作品の真作性

ラールセンは伝承と作曲家自身との関係の深さに注目し、「作曲家自身の手を通して伝承された真作、作曲家の周辺人物による良質な伝承をもつ作品、不確かな作品、おそらく真作でないもの、真作でないと証拠づけられる作品」(註8)の5つの段階に区分できると述べている。作品の真作性のこの5つの段階をABCDEと表示すると、それぞれの具体的根拠として、Aについては、自筆譜、作曲家自身による作品目録記入、自筆の書き込み入りの筆写譜、作曲家との直接契約が証拠づけられる出版譜、またBについては、作曲家の専属コピストによる筆写譜、などがあげられる。作曲家と直接的にも間接的にも接触した形跡をもたない伝承は、Cと評価される。(註9) 同じ作品が2つ以上の異なる作曲家の名前で伝承されている場合、伝承がどの作曲家とも直接的または間接的関係を示していなければC、特定の他の作曲家との間接的関係を示していればD(特定の他の作曲家側からみればB)、特定の他の作曲家との直接的関係を示していればE(特定の他の作曲家側からみればA)、と評価される。1人の作曲家の様式を考察する場合、対象として扱われる作品の真作性の範囲は通常A～Cと考えられる。

1.2 楽譜の信頼性

作品自体の真作性が作品目録類を根拠に高く評価されていても、実際に様式研究の材料として用いる楽譜(筆写譜、出版譜)は異なる段階に評価される場合がある。また現代の校訂楽譜を用いる場合でも、その主たる典拠によって楽譜そのものの信頼性は作品ごとに異なる可能性がある。様式的考察が楽譜を基にして行なわれる以上、このような楽譜の信頼性を見過ぐすことはできない。(註10) この楽譜の信頼性の評価基準は真作性の評価基準と同一であるが、評価は小文字a～cで表わすこととする。

2. 成立年代

曲の真偽についてと同様、成立年代についても、外的証拠の与える示唆が様式的な判断よりも優先される。伝承および伝承研究によって与えられる成立年代の示唆には、年代の確定されるもの(例えば自筆譜や自作作品目録への年代記入)、下限年代(～年以前)を与えるもの(筆写譜に記入された年代や出版譜の出版年代、など)、上限年代(～年以降)を与えるもの(編曲において典拠として用いられた原曲の作曲年代、など)、年代幅(～年以降～年以前)のわかるもの(筆写譜のコピストの活動時期がわかっている場合、書簡等における関連記述から推測できる場合、など)の4種類がある。各作品についてこれらの年代に関するデータをすべて集め、これを組み合わせた最も狭い年代範囲が、その作品の「伝承による可能年代」となる。

Ⅱ. ハイドンのクラヴィーア・トリオの真作性と伝承による作曲年代

現在までの研究により、ハイドンのクラヴィーア・トリオとして伝承されている作品は表3にあげた合計45曲と考えられている。(註11) 但し、このうち2曲(XV:33, D1)は現在消失し

ており、様式的考察の対象からは除外される。

これらの作品について真作性評価の根拠となる伝承は表1に示す通りである。(註12) また、成立年代の示唆を与える外的証拠は表2のようにまとめられる。これらを根拠として、各曲の真作性評価と成立年代(幅)は表3に示すような結果となる。(註30)

表3によると、対象曲は作曲年代により、1771年以前と1780～90年代の2つのグループに大きく分けることができる。この2グループの真作性に注目すると、前者はA～Cとさまざまな評価の曲を含むのに対して、後者はすべてAまたはA?という高い真作性を示している。このうち特に初期グループの4曲、すなわち XV:39, 42, XIV:6, C1 については、真作であるかどうか、またオリジナル・ヴァージョンであるかどうかという点で、2人のハイドン研究者ランドンとフェーダーの意見が対立している。(註39)

また楽器編成に注目してみると、フルートを含む編成の曲3曲(XV:15-17)、オリジナル・ヴァージョン不明の曲1曲(XV:32)の他、バリトンを含むクラヴィーア合奏曲(XIV:2)からの真正な編曲1曲(XV:2)が含まれている。さらに、ヴァルターの指摘によれば、クラヴィーアの種類に年代的な変化を考慮する必要がある。(註40)

以上の諸点については、最後の総合考察においても一度取り上げ、様式的観点からの考察を加える。

なお、ここで様式的考察に用いる現代版校訂楽譜の信頼性は、典拠となっている伝承に基づき、表3のように評価される。この評価は、XV:32を除くすべての曲において作品の真作性評価と一致している。

Ⅲ. 様式的考察の方法と手順

1. ラルーによる方法論の枠組み(註41)

1.1 観察のレベルと視点

ラルーは音楽を **growth process** 生成過程として捉え、そのプロセスを記述してゆく上で3段階の観察レベルと5つの要素を設定している。**large dimension, middle dimension, small dimension** の3つの段階は、それぞれ曲全体あるいは楽章単位、セクション単位、そしてフレーズ単位という観察のレベルを示している。また5つの要素 **SHMRG** のうち、**SHMR** はそれぞれ **sound** 音響, **harmony** 和声, **melody** 旋律, **rhythm** リズムを表わしており、これに対して5番目の **G (growth)** 生成は、これら4要素を結びつけると同時に調整する、二重の性格をもつ要素として捉えられている。音楽作品においては、これら5つの要素が相互に関係しあって全体の動き **movement** を生み出すとともに、この **movement** の時間的集積が我々に音楽的な形 **shape** の印象を与えていく。つまり、この **movement** と **shape** は音楽という生成過程のもつ2つのアスペクトである。

1.2 観察の手順

ラルーは様式分析の手順を、予備知識—観察—評価という3段階の枠組みで捉えている。第

1 段階の予備知識として、まず作品がいかなる地域のいかなる時代様式に属しているかを確認し、その時代様式の中で何が特殊で、また何がありふれた特徴であるのかという基礎知識を備えておくことが必要である。次の第2段階では、SHMRGの5要素についてそれぞれ3つのレベルで観察し、その様相を時間軸に沿って記述するとともに、各要素がどのような機能と相互関係をもって全体の movement と shape の生成に寄与しているかという点を読み取ってゆく。その際、3つのレベルと5つの要素の観察には一定の順序や優位性はなく、観察は、さまざまな視点からの検討を重ねて観察結果を自己修正し、総合的な結果へと収束させていくプロセスとして捉えられている。そしてこのプロセスにおいては重要なデータを選別していくということがより大切であること、また主観的判断を伴う場合には Rule of Three (註42) を採用するのが効果的であることが指摘されている。第3段階の評価では、前段階で得られたデータを基に作品の scope (規模と複雑さ)、歴史的考慮、客観的评价 (SHMRG のコントロール: 統一, 変化, バランス)、主観的评价の4点を軸として、作品に対する美的評価を行なう。ここでは客観的に観察される音楽的事象が美的判断の基礎をなすという考え方が根底にあり、よってこの最終段階で必然的に客観的评价と主観的评价が総合される。

2. 18世紀ヨーロッパの器楽作品を対象とする様式的考察の方法論

ラールの「手引き」は一般的指針として提示されているため、対象と目的に合わせてさらに精密化する必要がある。ここでは、同じジャンルの複数の作品の比較考察を行なうことを目的とするため、考察の枠組みとして、予備知識—観察(分解と総合)—評価—比較という4段階を設定する。

2.1 予備知識

18世紀ヨーロッパの器楽作品を対象とする上で、その時代様式の概観を基礎知識としてもっていなければならない。その具体的な事項をラールの5要素に関連づけてみると、例えば、使用楽器の特徴や楽器の標準編成(S)、和声語法(H)、旋律やモチーフの扱い方(M)などがあげられる。また当時の音楽理論書から形式や様式の捉え方(G)に関する記述を抽出してみることも、分析を進める上で大いに参考となる。(註43)

2.2 観察と記述

ラールは観察に3段階のレベルを設定しているが、ここではその large dimension から楽章構成に関する事らを独立させて cyclic level とし、(註44) 合計4段階のレベルで観察を行なう。作品の観察と記述には、SHMRGの各要素を別々に観るアプローチ(記述)と、5要素の相互関係によって生み出される総合的な shape に注目するアプローチ(モデル化)の、2種類のアプローチが行なわれる。

これらのレベルとアプローチの方法との関係は表4のように示すことができる。

2.2.1 記述

SHMRG それぞれの様相を時間軸に沿って記述してゆく。記述のレベルは2段階とし、

cyclic level と large dimension に関してはチェック・シートに記入, middle および small dimension についてはタイム・ラインを作製する。

2.2.1.1 チェック・シート

表5に示すようなチェック・シートを各曲に1枚ずつ用意し, チェック項目としてあげられている様式的特徴について楽章ごとにその有無と様相を記入してゆく。チェック項目はもともと用意されているのではなく, さまざまな視点から複数の曲を観ていく経過の中で, 同時に, 曲ごとの相違をよく表わしている特徴をとりあげて作製, 追加していく。

2.2.1.2 タイム・ライン

タイム・ラインは, 表6のように横軸を時間軸にとった書式で, 時間軸に沿って SHMRG の様相を各欄に記述してゆく。この記述においてはセクション (middle dimension) の変わり目ごとに紙を改め, のちに, タイム・ラインを上下に並べてセクション間 (例えば提示部と再現部) の比較ができるようにする。

G欄のアルファベットは shape を表わすシンボル(註46), 欄外のアルファベットは middle dimension のシンボル(註47)で, 数字は小節数, 或いは小節番号を示す。M欄の 1m, 2m……はモチーフの呼称, また 2mP は 2m がもと P で出現したモチーフであることを示す。その他の欄の記述方法は対象に応じて工夫することができる。

2.2.2 モデル化

モデルは SHMRG の5要素の相互作用によって生み出される shape を図式により表わそうとするもので, 4つのレベルそれぞれについて作製する。いずれのレベルにおいても, タイム・ラインと同様時間軸を横にとるが, 各要素についての記述欄はタイム・ラインとは異なり, 上から R, M, S および G, H の順となっている。

2.2.2.1 楽章構成モデル (cyclic level) 図1

チェック・シートで記述した各楽章の特徴とその相互関係に注目し, 以下の方法でモデルを作製する。

G: 各楽章の規模のつり合いを横幅で示す。各楽章のシンボルを記入し, 楽章間の区切りを縦線 (連続している場合は点線) で示す。

R: 拍子の組み合わせを記入する

M: 楽章間にモチーフの連関がある場合その関係を記入する。

S: 各楽章の楽器編成や用法が異なる場合, 編成の大小や音色の変化を横線の高さで示す。

H: 楽章間の調関係をローマ数字で記す。

2.2.2.2 楽章モデル (large dimension) 図2

ひとつの楽章がどのようなセクションから構成されているかを次の方法で図示する。

G: 反復記号による曲の枠組みを各部分の規模のつり合いに合わせて記入し, 反復記号のない区切れは, 明確な場合には実線, 不明確な場合には点線で縦線を入れる。各部分のシンボルを記入する。

R：各セクション間で速度やテンポの変化，旋律や伴奏のリズム単位の変化，またフェルマータやゲネラル・パウゼによる区切れがある場合，その内容を記す。

M：各セクション間のモチーフの関連を記す。

S：各セクション間に楽器編成や用法，音色の上での明確な相違がある場合，その変化を横線の高さで示す。その際対象とする曲の楽器編成に応じて，最もよく用いられている特徴的な音色を指標とし，音色の変化を数段階の高さで表わす。また小変化は「V」で表わす。

H：セクション単位の調的構成プランをローマ数字で示す。

2.2.2.3 E (又は D, R) モデル (middle dimension)

楽章内のセクション，例えばソナタ形式の提示部 (E)，展開部 (D)，再現部 (R)，のモデルは次の方法で図示される。

提示部 (E) 図 3

G：フレーズの区切りをその規模に従って縦線（不明瞭な場合には点線）で記し，各フレーズのシンボルを記入する。R 欄の上に各フレーズの開始の小節番号を記入する。

R：各フレーズ間における旋律や伴奏のリズム単位の変化 (rh)，またフェルマータ (∞) やゲネラル・パウゼ (G. P.)，休符 (r) による区切れなどを記す。

M：各フレーズ間の素材の関連を記し，用いられている素材が変化する箇所に区切りの縦線を入れる。

S：楽章モデルと同じ

H：調の変化を調名で，カデンツによる区切れをローマ数字と縦線で記入する (V | は半終止，V-I | は完全終止，など)

展開部 (D) 図 4

Eモデルと同じ方法で作製する。D内のフレーズは1 D, 2 D……と表示し，各フレーズに導入的機能，再現的機能，橋わたしの機能がみられる場合には，それぞれ DO, DR, DT と表示する。

再現部 (R) 図 3

RモデルはEモデルの下に合わせて作製し，Eと比較して，再現している部分は実線，再現していない部分は×印を記す。特に新しい転調を伴う変化や別の素材を用いた変化はNを記し，その上に素材を，下に調を記す。

2.2.2.4 Pモデル (small dimension) 図 5

フレーズの単位においても，ソナタ形式における第1主題 (P) などのような主要フレーズについては，その構造をモデル化する意義が大きい。

G：サブ・フレーズの小節構造をR欄に数字で示し，その規模に合わせて横幅をとり，M欄にサブ・フレーズのシンボル (a, b, c……) を記入する。

R：サブ・フレーズ間で旋律や伴奏のリズム単位の変化，休符による区切りなどがある場合

は記す。

M：サブ・フレーズ間の素材の関係を記す。(a = bはaとbが同素材，b(a)はbにa素材が用いられていることを示す。)

S：サブ・フレーズ間の音色の変化を横線の高さで示す。(楽章モデルと同じ)

H：カデンツを記入する。

2.3 評価——様式的特徴の抽出

以上の手順によって得られた各曲のデータを比較し，作品間の様式的類似性の有無を考察するために，第3段階では有効なチェック項目，つまり作品の特徴と変化を最もよく表わしている様式的特徴を抽出していく。前段階の2つのアプローチのうち，記述のアプローチによって得られたデータは，多くの場合そのままチェック項目として用いることが可能である。しかしモデル化のアプローチで得られた各曲のモデルは，それ自体さまざまな要素を含んでいるので，曲ごとに微妙な相違をもっている。よって後者の場合には，さらに同じ構成原理のものを集めて抽象モデルを作製し，これをチェック項目として用いる。このチェック項目も前項に従って観察のレベルと視点により区分整理する。

チェック・リスト(表7)においては，横軸に抽出されたチェック項目を，縦軸に作品を並べて，チェック項目に対してyesの場合には○またはその内容，no または該当部分のない場合には空欄，あやふやな場合には?またはその内容を記して，チェック・リストを完成させていく。チェック・リストは各レベルごとに作製し，cyclic level では対象曲全曲，large dimension 以下は同じ種類の楽章(同じ楽章シンボル(註45)で表示されるもの)について比較考察を行なう。

2.4 比較——伝承と様式的総合比較考察

前項のチェック・リストを土台として，様式的に類似するものを選別し，様式的なグルーピングを行なうことができる。その際，伝承研究によって得られた作品と楽譜の真作性評価，および成立年代(幅)に再度注目することにより，様式研究の中に伝承研究の成果を十分に生かすことが可能となる。すなわち，考察対象の中で真作性評価が高くかつ成立年代の明らかなものを選び，これを様式的考察における判断の基準とすることにより，その判断の精度はより高いものとなる。

チェック・リスト上ではこの判断基準となる作品を拠り所として，様式的類似を示す曲どうしを近い位置におくように曲順の入れ替えを行なう。この操作をくり返した結果，チェック・リスト上には様式的類似，あるいは変化，相違を表わす最も適当な曲順を得ることができる。この曲順あるいは曲のグルーピングを基に，結論として次の考察を行なうことが可能である。

- (1) 観察のレベルによって，様式的変化，様式的グルーピングにどのような相違が出るか。
- (2) (1)の相違をふまえながら，すべてのレベルを総合した様式的曲順，あるいはグルーピングを得ることが可能か。

さらに(1)，(2)で得られた曲順，あるいはグルーピングについて，

- (3) 様式と成立年代との関係——様式的変化やグルーピングと、伝承の与える年代データの間に相関関係がみられるか。それがみられる場合には、伝承の与える年代データを基に、さらに様式的根拠による年代推定を行なうことができる。
- (4) 様式と曲種との関係——対象作品内に複数の曲種が認められる場合、様式的変化やグルーピングを曲種による相違として捉えられる可能性がある。
- (5) 様式と楽器（編成）との関係——同じ曲種の作品でも、特別な楽器編成、楽器用法を生かすために、あるいは使用楽器の年代的な性能変化に応じて、異なる様式で作曲されている場合がある。
- (6) 様式と真作性との関係——真作性AおよびBの作品を中心に示される様式はその作曲家の様式として認められるが、真作性AおよびBの作品にみられない様式は本当にその作曲家の様式であるかどうか疑問がもたれる。よって真作性Cの作品については、真作性AおよびBの作品と様式的類似を示しているか否かによって、さらに真作性の高低を論じることができる。但し、様式を根拠として曲の真偽について断定することは不可能であり、この論議は伝承の現状に基づいて立てられた仮説として位置づけられる。

Ⅳ. ハイドンのクラヴィーア・トリオの様式的考察

以上の手順によって、ハイドンのクラヴィーア・トリオ全43曲の様式について考察した結果を以下に示す。すでに第Ⅱ章において指摘した通り、対象曲は外的状況により1771年以前の15曲と1780—90年代の28曲の2グループに分けられ、前者の初期グループにおいては真作性の幅がA～Cと広く、後者の後期グループにおいては真作性がAおよびA?で高い。よって初期グループにおいては、真作性が高くかつ成立年代推定幅の狭い作品、すなわち XV:2 (Aa 1767—71), XV:34 (Bb —1760), XV:35 (Bb ca. 1764 (—71)), XV:f1 (Bb —1760) の4曲を様式的考察における判断基準曲として設定した。

以下、各レベルにおける考察結果をチェック・リストにて示す。チェック・リスト内の曲順は、すでに様式的類似性を示す最も適当な曲順へと入れ替えてあり、判断基準となる作品は*印で示した。またチェック項目は様式的グルーピングに有効なものだけを列挙した。

1. cyclic level (チェック・リスト1)

1.1 初期

初期作品は大きく2つのグループに分けることができる。

第1グループ (XV:37, 36, 38, f1, 34, C1, 2, 41, 40, 1, 35) の主な特徴は、チェック項目(1) M^Tを含む3楽章構成、(3)全楽章が同調、および(13)チェンバロに通奏低音部分がある、という3点である。また作曲年代に関係がある特徴として、(13)、(14)、(21)の3項目をあげることができる。つまり、作曲年代が進むにつれて、チェンバロの通奏低音部分がみられなくなり、チェンバロ左手とバス声部の不一致部分が増加し、チェンバロに長い *tr* 音型がみられるよう

になるという変化を推量することが可能である。

第2グループ (XIV:C1, XV:39, XIV:6, XV:42) には、第1グループに示される主な特徴がほとんど現われていない。特に XV:42 は、他のどの曲にもみられない楽器用法 (チェック項目⑩と⑫) で作曲されている点が注目される。

1.2 後期

後期の作品は、大きく3つのグループ (第3～第5グループ) に分けることができる。

第3グループ (XV:5-17, 32) の主な特徴は、(1)楽章構成モデル (AC 型, BA 型, ABC^R 型), (4)転調の種類 (短調から6度長調 (平行調の下属調) への転調), (5)減七和音の効果的使用, (7)ジェネラル・パウゼの効果的使用, (8)セクションの区切りにおける同一モチーフの反復, (14)クラヴィーアの長い *tr* 音型, および⑫全声部ユニゾンの書法, の7項目である。第3グループに含まれる14曲の作曲年代は、1784～94? 年の約10年間にわたるが、上記の特徴と、チェック項目⑩ *fz* による弱拍の強調, および⑭カノンの書法に、その10年間の中での年代的な変化をみることができる。この年代的变化は漸次の変化であるため、この第3グループをさらに明確に小区分することは難しいが、XV:5 と XV:32 がそれぞれやや孤立して位置し、残りの12曲の中では XV:11 のあたりを転換点として様式が変化している傾向をみい出すことができる。

第4、第5グループは、ともに1791年以降の作品を含み、年代的には重なっている。しかし第5グループの9曲は、様式的により強い相関を示し、また最も遅い確定年代1796年の曲 XV:30を含むため、第4グループの5曲と分けて後に置いた。

第4グループ (XV:18, 19, 21, 23, 25) の独自の特徴は、(1)楽章構成モデル (B^VB^SC^S 型) のみで、その他の特徴は、第5グループ、または第3グループと共通するものが多い。

第5グループ (XV:20, 22, 24, 27-31) の主な特徴は、(1)楽章構成モデル (A^SBC^S 型, A^SBC³ 型), (3)中間楽章に主調から遠い調 (C^{dur}→A^{dur}) が選ばれる, (4)長調から短6度長調への転調, エンハーモニック転調, (5)減七和音の効果的使用, (6)フェルマータによるカデンツァの導入, (9)ヘミオラ, (10) *fz* による弱拍の連続的強調, (11)強弱の頻繁な交替, (16)ピアノの *ad. lib.* 部分, (17)ピアノのオクターブの前打音, (18)ピアノ・パートの手の交叉, および⑮対旋律を付加する書法, という12項目である。これらの特徴による相関はかなり強く、第5グループ内にさらに小区分や年代的变化をみいだすことはできない。

2. 各楽章の large—middle—small dimension

2.1 ソナタ形式の急速な第1楽章 (チェック・リスト2)

2.1.1 初期

初期作品は大きく2つのグループに分けることができる。

第1グループ (XV:36, 34, 38, C1, f1, 40, 41, 1, 2, 35) の主な特徴は、(2)楽章モデル ||:E:||:DR:||, (4)調構成プラン I-V-(x) (第3次調カデンツ) -I, (5)EモデルA型, (6)Eにおいて

最初の強いカデンツ(註48)がSまたはKにある, (7)E内での同一伴奏リズムの保持, (9)PモデルA型またはB型, (10)Pに伴奏モチーフ()がある, (11)(12)Paがチェンバロ, PbはヴァイオリンとPの中で担当楽器が交替, (16)Rモデルa型, (17)Pの変化再現, (22)DモデルA型, (23)DがSの調I度で開始, (24)Dには第3次調のカデンツのみあり, 第3次調の安定部分はない, という13項目である。またこのうちの(4), (5), (6), (9), (17), (22), (24), および(11)Pがヴァイオリンとチェンバロの対旋律書法, (13)Kに細かい伴奏音型, (25)Dに新素材が出現, の特徴は, 年代と相関している可能性がある。

第2グループのXV:39とXIV:6は, 第1グループの示す上記の特徴のうち, (2), (23)のわずか2点のみが共通している。その他の共通性は少なく, また曲の規模も第1グループと比べて小さい。

2.1.2 後期 (XV:6, 8, 10-12, 14-18, 20, 21, 22, 24, 26-28, 30)

まず, (4)(24)調構成プラン I-V-x (第3次調安定)-I または I-V-x-y-I, (5)EモデルC型, (6)Eにおける最初の強いカデンツがPとTの間にある, (7)(8)伴奏および旋律のリズム単位の変化, の4つの特徴は, 後期の作品全体にわたってみられる。また, このグループの中にはさまざまな様式的特徴の年代的变化が認められる。その例としては, (2)楽章モデル, (3)EDRのプロポーション, (5)EモデルB型, D型, E型, (9)PモデルD型, (11)Pの音色, (12)P内の音色変化内容, (13)~(15)Kの素材の特徴, (16)Rモデルc型, (19), (20)Rにおける新しい推移部の様相, (21)新しいコーダの位置, (22)DモデルB型, C型, (23)Dの開始調, (25)(26)Dにおけるモチーフの特徴, があげられる。これらの特徴に従って第3グループをさらに小区分するならば, その区切り目として, XV:12と14の間, XV:17と18の間, およびXV:21と22の間が想定される。

2.2 ソナタ形式の急速な第2楽章 (チェック・リスト2)

2.2.1 初期

該当楽章はXV:37 1曲のみにみられる。その様式的特徴を同時期の第1楽章(2.1.1項, 第1グループ)と比較してみると, (2)楽章モデル, (4)(24)調構成プラン, (6)Eにおける最初の強いカデンツの位置, (7)E内における同一伴奏リズムの保持, (9)PモデルB型, (11)(12)Pのサウンドの特徴, (22)DモデルA型, (23)Dの開始調, の8項目で, 第1楽章と共通した特徴がみられる。

2.2.2 後期

該当楽章はXV:5, 9, 13, 32の4曲にみられ, 年代的には散らばっている。4曲に共通する特徴は少なく, 同時期の第1楽章(2.1.2項), と共通する特徴は, (6)Eにおける最初の強いカデンツの位置, (7)(8)E内での伴奏または旋律のリズムの変化, (9)PモデルC型, D型, (10)Pの伴奏モチーフ, (4)(24)Dにおける第3次調, の5項目である。また, (12)P内の音色変化の内容, (21)新しいコーダの位置, (23)Dの開始調, の3項目においては, 第1楽章と異なる傾向がみられる。

2.3 ソナタ形式の緩徐第1楽章 (チェック・リスト3)

2.3.1 初期

該当楽章は XV:37 と XIV:C1 の 2 曲にみられる。2 曲に共通する特徴は、(2)楽章モデル $\parallel:E:\parallel:DR:\parallel$ 、[および(6)E内の最初の強いカデンツがSまたはKにある、の2項目しかない。それぞれ拍子も異なり、また XIV:C1 は特に小規模である。

2.3.2 後期

該当楽章は XV:5 と XV:9 の 2 曲にみられる。2 曲とも、(1)拍子と小節数、(4)調の構成プラン、(5)EモデルH型、(7)E内における伴奏リズム単位の変化、(10)P内の音色変化の内容、(11)Tにおけるドッペル・ドミナントによる転調、(12)Tに新素材を用いる、(13)Sの後半が推移的になっている、の8点で共通しており、年代的にも近い。

2.4 ソナタ形式の緩徐中間楽章（チェック・リスト3）

2.4.1 初期

該当楽章は XV:41, 39, XIV:6 の3曲であるが、共通する特徴は、(11)Tにおけるドッペル・ドミナントによる転調、の1項目しかない。XV:41 は同時期の XV:37 の第1楽章（2.3.1項）と、(2), (3), (4), (6), (7), (11), (18), (19)の8項目で共通し、XV:39, XIV:6 に対してよりも共通要素が多い。一方、XV:39 と XIV:6 に共通する特徴、(14)Pの再現欠落は、他のどの曲にもない独自の特徴である。

2.4.2 後期

該当楽章は XV:12, 16, 19, 22, 23, 26, 28の7曲にみられる。(3)EDR のプロポーション ($E>D<R$)、(4)調の構成プラン I-V~I、は7曲に共通した特徴であり、その他、(2)楽章モデル EDR（反復記号なし）、(9)Pの主旋律をクラヴィーアが受けもつ、(15)Rに変奏を含む、の3点でも類似した傾向がみられる。また、(1)6/8拍子、(6)E内の最初の強いカデンツがPにある、(13)Sの後半が推移的、の3つの特徴はより早い年代に関係すると考えられる。

2.5 ソナタ形式の急速なフィナーレ（チェック・リスト4）

2.5.1 初期

初期の該当楽章9曲は、3つのグループに分けることができる。

第1グループ (XV:36, 1, 41) はすべて3拍子系の曲で、(2)楽章モデル $\parallel:E:\parallel:DR:\parallel$ 、(3)(17)調の構成プラン I-V~I、および(4)同一旋律リズムの保持、のいずれも large dimension の3つの特徴が共通している。しかし middle dimension 以下ではそれぞれ少しずつ異なっている。

第2グループ (XV:38, f1, 40, 35) はすべて2/4拍子で、(1)拍子と小節数、(2)楽章モデル $\parallel:E:\parallel:DR:\parallel$ 、(5)EモデルF型、(6)E内の最初の強いカデンツがPにある、(7)E内における伴奏リズム単位の変化、(10)Pの伴奏形  (16)DがSの調I度から開始、の7項目で共通性をみせている。また(11)Rモデルf型、(15)DモデルD型、の2つの特徴はこのグループにのみみられるものである。

第3グループの2曲 (XV:39, XIV:C1) も、第2グループと同様2/4拍子の曲である。しかしその規模は小さく（チェック項目(1)）、第2グループと共通する特徴は、(2)楽章モデル、

(7)E内における伴奏リズム単位の変化, の2点しかない。その他に, 第1グループと共通する特徴が2点(チェック項目(3)(17), (11)), 独自の特徴が1点(チェック項目(13)再現部におけるKの拡大)みられる。

2.5.2 後期

該当楽章はXV:14, 17, 19, 21-23, 27, 29の8曲で,(註49) 3/4拍子, 2/4拍子, および 6/8拍子の曲がみられる。全体的な傾向として, (12)Pの再現部分で反復を省略, (16)Dが主調およびSの調以外の調の属和音で開始する, という2つの特徴があげられる。また, (2)楽章モデル ||:E:||DR||, (3)(17)調の構成プラン, (5)EモデルG型, (6)E内の最初の強いカデンツの位置, (7)(8)Eにおける伴奏または旋律リズム単位の変化, (9)Pa=Pb, (10)Pの伴奏形, (14)新しいコードの位置, (15)DモデルC型, の9項目はそれぞれ作曲年代に関する特徴と考えられる。しかし, この8曲の中で様式の明確な転換点をみいだすことは難しい。

2.6 急速なロンド形式のフィナーレ(チェック・リスト5)

後期の XV:7, 12, 15, 16, 25に該当楽章がある。全曲に共通する特徴は, (6)2回目以降のロンド・テーマにおける反復の省略, (10)コードがある, という外形的な特徴だけで, その他の点では各曲それぞれ異なっている。(1)楽章モデル, (9)反復記号のつかない推移的なエピソード, の2項目は, 年代に関する特徴と考えられる。

2.7 ロンド形式と変奏形式の混合形式による緩徐第1楽章(チェック・リスト5)

該当楽章は XV:25 と 31の2曲にあり, (1)楽章モデル, (2)調の構成プラン, (5)2N(第2エピソード)にみられる音色的対比, および(8)2回目以降のロンド・テーマに変奏が加えられる, の4項目で共通性を示している。

2.8 変奏形式による緩徐終楽章(チェック・リスト6)

該当楽章は初期の XV:C1, 2, 42にみられ, (1)楽章モデル, (4)低音進行が常に変わらない, (5)全体にリズム単位が細分化されていく, という3項目で共通した特徴を示している。

2.9 変奏形式による緩徐第1楽章(チェック・リスト6)

該当楽章は後期の XV:7, 13, 19, 23にみられ, うち3曲(XV:13, 19, 23)は二主題変奏である。4曲に共通する様式的特徴は, (5)全体にリズム単位が細分化されていく, (8)主題がクラヴィーアを中心とした音色で提示される, という2点である。(6)主要楽器の交替, (7)主題のモデル, (10)変奏における対旋律の付加, (11)コードをもつ, の4点は年代的な特徴と考えられる。

2.10 変奏形式による緩徐中間楽章(チェック・リスト6)

該当曲は XV:20 の1曲だけである。同時期の第1楽章の様式(2.9項)と比較してみると, (5)全体にリズム単位が細分化されていく, (8)主題の音色, の他, (10), (11)の年代的特徴において相関関係を示している。

2.11 メヌエット・トリオ楽章(チェック・リスト7)

該当曲は初期にのみみられ, 大きく2つのグループに分けることができる。

第1グループ(XV:37, 34, C1, 38, 40, 41, f1, 1, 35, 2)の主な特徴は, (3)メヌエット

・トリオ間のリズム単位の変化, (4)主要楽器の変化, (7)メヌエットではヴァイオリンとチェンバロ右手が主旋律を担当, (9)トリオに調的な動きがある, (11)トリオではヴァイオリンが主旋律, チェンバロが伴奏音型を担当, という5項目であり, このうち(4)は年代と関連をもつ可能性がある。

第2グループの3曲(XV:39, XIV:6, C1)は, 第1グループと(3)および(9)の点で類似性をもつ。第2グループの主な特徴は, その他, (2)メヌエット・トリオ間のモチーフの関連, (5)メヌエットのモデル, などであるが, このうち(2)は, 第1グループにはほとんどみられない特徴である。

2.12 (複合) 3部形式の急速な第1楽章 (チェック・リスト8)

2.12.1 初期

該当するXV:34, 36, 39, XIV:C1は, さらに2つのグループに区分できる。

第1グループのXV:34と36はどちらも3拍子系で, (2)楽章モデル, (4)E・N間におけるリズム単位の細分化, (7)音色の変化, (8)Eモデル, (15)Nモデル, (16)Nに調的变化が含まれる, の6項目で共通性を示している。

第2グループのXV:39とXIV:C1は, 2/4拍子と3/8拍子でどちらも非常に小規模な3部形式である。2曲に共通してみられる特徴, (2)Eモデル, (5)EとNが同調, (6)EとNのモチーフ関連, はいずれも第1グループと異なっている。

2.12.2 後期

該当楽章は10曲(XV:6, 8, 10, 11, 20, 24, 26, 31, 28, 30)にみられる。共通してみられる傾向は, (1)3/4拍子, (6)EとNのモチーフ関連, (16)Nに調的变化が含まれる, (18)コーダがある, という4点である。また, (2)楽章モデル, (8)Eモデル, (9)Eでピアノとヴァイオリンが主旋律を担当, (13)(14)Rにおける変奏手法, (19)特殊和音によるコーダの導入, (21)Rのモチーフによるコーダの形成, の6項目は年代と相関しているものと考えられる。しかし全体として, 年代的变化はあまり明瞭ではない。

2.13 (複合) 3部形式の緩徐第1楽章 (チェック・リスト9)

対象となる楽章はXV:32の1曲しかない。その特徴を中間楽章の様式(2.14項)と比較すると, すべての項目で年代的な相関が認められる。

2.14 (複合) 3部形式の緩徐中間楽章 (チェック・リスト9)

該当楽章は, XV:14, 15, 18, 21, 24, 25, 27, 30の8曲にあり, (6)NでEと異なる楽器を主に用いる, という特徴が全体にみられる。XV:21のみはNでE要素が調だけ変えて現われるという様式で, 他の7曲から孤立した存在である。その他に年代的变化を表わす特徴として, (4)EとNのモチーフ関連, (6)EとNの強弱による対比, (7)Eの音色, (10)Rにおける音色の変化, (11)Nモデル, の5項目があげられる。これらの特徴により, XV:21を境としてさらに2つに小区分することが可能である。

3. 伝承と様式の総合考察

以上の考察の結果、第Ⅲ章 2.4 項にあげた点について、次のような結論を得ることができる。

3.1 観察のレベルと視点によって、様式的グルーピングにどのような相違が出るか。

各レベルで出された様式的グルーピングを比較すると、表 9 のような結果となり、(註50) 以下の点を確認できる。①cyclic level および急速なソナタ形式の第 1 楽章 (2.1 項) においては、強い相関性をもつ様式的グルーピングが認められ、それぞれのグルーピングの結果はほぼ一致する。②初期作品においては、その他に、急速なソナタ形式のフィナーレ (2.5 項)、変奏楽章 (2.8 項)、メヌエット楽章 (2.11 項)、および複合 3 部形式の急速楽章 (2.12 項) においても、様式的相関性が認められる。③その他においては、様式的な相関性があまり強くみられない。④どのレベルにおいても、曲のグルーピングに大きな異同はみられない。

3.2 すべてのレベルと視点を総合した様式的グルーピングを得ることが可能か。

強い相関を示す様式的グルーピングを中心に、表 9 に示した各レベルのグルーピングを総合すると、表 9 右欄に示すような総合的グルーピング (第 1 ～ 第 6 グループ) を得ることが可能である。

このうち、第 1 グループの作品は、全体として強い相関性をもつと同時に、さらに小区分することができる。さまざまなレベルのグルーピングで、常に前半に並ぶもの (XV:37, 36, 34, 38, C1)、常にやや後ろより並ぶもの (XV:40, 41)、末尾につくもの (XV:35, 2) を考慮して横線でその区切りを示した。

第 2 グループの相関性は、cyclic level と急速なソナタ形式の第 1 楽章とはみられず、その他の楽章にのみ表われているもので、第 1 グループのような強いものではない。

第 3 ～ 第 6 グループは、後期作品を 4 つに区分したものである。第 4、第 5 グループの境界は XV:32 と 18 の間に示されるが、その他の境界はあまり明確ではなく、斜線に示したあたりと考えることができる。

3.3 様式と成立年代との関係

表 10 は、表 9 右欄の様式的グルーピングと、第Ⅱ章で得られた各曲の成立年代の伝承データ、および真作性評価を対照したものである。これらを比較することにより、様式的グルーピングと成立年代との関係として、以下の点があげられる。①第 1 グループのうち前半の 6 曲 (XV:37, 36, 34, 38, C1, f1) は、判断基準曲 XV:34, f1 との共通性から、1760 年以前の成立が推定される。但し 6 曲の中での年代順序を推定することはできない。続く 3 曲 (XV:40, 41, 1) は、様式的には前の 6 曲よりやや遅い年代が推測されるが、具体的な推定を行なうための年代根拠を欠いている。最後の 2 曲は、それぞれ伝承により 1767—71 年、1764 年頃 (1771 年以前) と年代が限定されている。ここでは、遅い年代をもつ XV:2 の方が前に置かれているが、これは XV:2 が編曲であることに関係すると思われる (3.5 項参照)。②第 2 グループは、判断基準曲のいずれとも共通性が少ないため、さらに狭い年代幅を推定することができない。③第 3 グループと第 4 グループの境界と考えられる XV:12 前後では、XV:11

～13の3曲がまとまって1788～89年の年代を示している。よってこの3曲全体を接点の曲として位置づけることとする（推定欄斜線）。④③により、第3グループの曲は XV：5～10 となる。このうち XV：6, 7, 9 は自筆譜によって1784, 1785年の成立が確定している。XV：5, 8, 10 の下限年代は XV：6.7.9 の確定年代と近く、様式的なまとまりの上からも近い年代が推定される。⑤第4グループの XV：14～17, 32 のうち、XV：15—17 の3曲は伝承により1790年の成立が確定されている。XV：14 の下限年代も1790年で、様式面からも近い年代が推定される。XV：32 は、伝承から1792?～94年と年代が限定されている。様式的共通性から、成立年代はこの年代幅の中で前寄りに位置する可能性がある。⑥第5, 第6グループでは、年代の確定されている曲が少ないため、初版における曲の組み合わせ（XV：18—20, 21—23, 24—26, 27—29）を考察の手がかりとする。XV：22, 25, 26 の年代データは、いずれも1794年頃～1795年を示し、この年代を初版の3曲セットの他の曲にもあてはめると、表10において第5グループと第6グループの境界に位置する XV：21, 23, 25, 22, 24, 26 の6曲にこの年代を与えることができる（推定欄斜線）。第5グループに属する XV：18—20 は、下限年代が1794年であり、様式的にもこの境界の6曲よりやや早い1794年頃の成立が推定される。第6グループの中で、XV：30, 31 は、それぞれ1796年, 1795年の成立が自筆譜によって確定されている。XV：27～29 の3曲は、前後に位置する XV：22, 24, 26, および XV：30, 31 との共通性から1794年頃～1796年の成立が推定される。

3.4 様式と真作性との関係

表10に示される通り、初期第1グループはA～Cのさまざまな真作性の曲を含み、第2グループには真作性Cの曲のみが含まれる。すでに指摘した通り、第1グループの様式的相関性は強く、よって真作性の高い曲と共通性を示しているこのグループ内の真作性Cの曲は、様式的に真作としての大きな可能性をもつと言える。それに対して第2グループの曲は、様式的相関性も弱く、様式的観点から真作であることに疑念がもたれる。第3グループ以降の後期の曲は、すべて高い真作性を示しており、問題はない。

3.5 様式と曲種との関係

ここでは他曲種からの編曲についてのみ言及する。

まず XV：2 は、1767—71年という年代でありながら、1760年以前の曲と共通性をもつが、これはこの曲が XIV：2（1765年頃?）からの編曲である点に関係する可能性がある。（註34）この点については、バリトンを含む合奏曲という原曲の曲種の作曲様式を検討することにより、その関係がより明らかになると思われる。

第2グループの4曲は、前項において真作性に疑念が提示されたため、他曲種からの編曲である可能性を考える必要がある。（註33, 39）しかし、真正な編曲 XV：2 と比較すると、様式面での共通性は少なく、真正な編曲としての可能性も疑問視される。

また XV：32 は、ヴァイオリン・ソナタか、クラヴィーア・トリオか、その真正な編成（曲種）が不明であるが、（註38）楽器の扱い方の点でクラヴィーア・トリオであることに否定的

な要素はみられない。しかし曲の様式上、やや孤立した特徴もみられ、これが成立年代によるものであるのか、曲種の違いによるものであるのかは判断できない。

3.6 様式と楽器（編成）との関係

XV : 15—17 の 3 曲は、フルート、チェロ、ピアノの編成に指定されているが、(註35)フルート声部の扱い、および曲の様式ともに特殊性はみられない。XV : 17 の初版の指示にある通り、フルートをヴァイオリンに替えることも可能と思われる。

鍵盤楽器の扱い方には、初期と後期で大きな違いがみられる（チェック・リスト 1 のチェック項目(12)～(18)）。また後期においては、扱い方の変化が XV : 11(1788年)、XV : 21(c. 1794～1795年)を境としてみられる（チェック項目(14)～(18)）が、その前者は、ハイドンがピアノ・フォルテを購入した時期と一致する(註40)。また後者の c. 1794～95年は、ハイドンが、最高音 a⁸ までを用いた 唯一のピアノ・ソナタ Hob. XVI : 50 (1794年または1795年) を作曲した時期に一致する(註51)。つまり鍵盤楽器の種類と作曲様式には密接な相関関係が認められる。

（付属高校講師＝音楽理論担当）

註

- (註 1) 徳丸1982 : 2215. ここで問題とする様式とは、作品における内在的な要素の連関を指す。
- (註 2) Larsen 1939:15—17, Larsen 1972.
- (註 3) 徳丸1982 : 2215 ケネス・リー・パイクの提唱する対概念 *etic* と *emic* のうち、これは *emic* の立場となる。上述の通りここでは音楽を独立した対象として扱っているが、考察目的が異文化間の比較ではなく特定文化内での比較考察であるので、*emic* の立場を基礎とすることがより効果的と考えられる。
- (註 4) LaRue 1970.
- (註 5) 同書においてはその方法論の対象範囲に制限がつけられていないが、方法論そのものは、もともと18世紀のヨーロッパの器楽作品を対象に構成されたものである。LaRue 1957:25.
- (註 6) お茶の水女子大学大宮真琴教授音楽美学ゼミナール（ハイドンの交響曲、1978—81；モーツァルト、J. C. バッハ、ヴァーゲンザイルの交響曲、1982；ともにチェックリストの作製）の研究結果に基づく。大宮真琴教授、および高橋敏子修士、森川多佳子修士には、多くの協力と貴重な助言をいただいた。ここに感謝の意を表す。
- (註 7) 林 1970 : 24—26 では歴史学における史料の外的批判の内容として、真純性の批判 (*Kritik der Echtheit*)、来歴批判 (*Herkunftskritik*)、本原性の批判 (*Kritik der Ursprünglichkeit*) をあげている。但し、歴史学における史料が研究対象とする史実の傍証材料であるのに対して、ここでは研究対象とする作品そのものが同時に資料でもあるため、その批判の視点には自ら異なる点がある。
- (註 8) Larsen 1939 : 15.
- (註 9) 横田1982 : 8—11. 大崎1980 : 11—23においてはA～Dの4段階評価が採用されているが、これは異なる原則と根拠によるものである。

- (註10) チェンバロ声部の通奏低音の充填の有無や強弱記号の有無など、特に記譜上の問題と大きな関わりをもつ様式的特徴について論じる際、楽譜の信頼性評価を考慮に入れることが重要となる。
- (註11) Hoboken 1957 : 681—724, Feder 1970a, Landon 1970, Landon 1976a, Landon 1976b, Hoboken 1978 : 333—340, Landon 1978, Landon 1980参照。
- (註12) 横田1982 : 9—11に基づき、補足を加えた。それぞれの略号は Feder 1980 : 360にならって変更した。
- (註13) 伝承の状況に応じて、ここでは A, Bのカテゴリーに準ずる A?, B?のカテゴリーを設けた。A?は、伝承にハイドン自身が関わっているが、その関係が直接的ではないもの、B?は「良質な伝承」ではあるがその記述が常に信頼できるわけではないものである。Webster 1981 : 76—77 および註16, 17, 21, 22参照。
- (註14) エントヴルフ・カタログ (Eutwurf-Katalog=EK) はハイドンの真正な作品目録で、その主要部分は1765—77年に主にハイドン自身の手によって記された (Larsen 1939 : 209—250, Larsen 1941, Larsen 1979)。EKへの記入は真作性の判定に第1級の根拠を与える (Larsen 1939 : 241) が、そこに含まれるミサ曲ロラーテ・チェリ・デスベル Missa Rorate coeli desuper Hob. XXII : 3の1曲のみはその真作性に疑問が提示されている。Landon 1957, Landon 1959:40—46, Pfannhauser 1959:167, Schenk 1960, Landon 1968:199—200, Becker-Glauch 1970 : 172参照。
- (註15) ハイドンのロンドン滞在中の記録帳のうち第4記録帳には、「1791年1月2日から1795年までにイギリスで作曲した作品の目録」が付けられていた。この目録は現在失われているが、他の諸記録を基にしてランドンにより再構成されている。Bartha 1965 : 555—558参照。
- (註16) ハイドン作品目録(Haydn-Verzeichnis=HV) はヨハン・エルスラー (Bartha-Somfai 1960 : 417 参照) によって1805年に完成されたもので、部分的にハイドン自身の註釈と訂正が加えられている。このHVは、EKを中心とするさまざまな他の資料を基に作製されている。故に真作性の判定は、その記載がEKから引き継がれたものである場合にはEKに準ずるが、他の資料から採られている場合には、まずその典拠の信頼性を吟味する必要がある (Larsen 1939 : 251—322, Larsen 1941, Larsen 1979)。HVに記載されているクラヴィーア・トリオは、すべてブライトコップフの *Oeuvres Completttes* (作品全集) を基に記載されたものであり (Larsen 1939 : 306, Larsen 1979 : xii), よってその評価は *Oeuvres Completttes* の評価に準ずる。註22参照。
- (註17) ゲットヴァイク僧院に伝わるカタログと筆写譜は、ハイドンの作品伝承の中でも「重要な伝承」として評価されている (Larsen 1939 : 96)。しかし、ここに伝わる交響曲1曲 Hob. I : A6は、ハイドンの名が記されているにもかかわらずカルロ・ドルドネスの作品と考えられており、よってゲットヴァイク僧院の伝承をすべてBと判定するわけにはいかない (Landon 1959 : 31—36)。
- (註18) Bartha-Somfai 1960 : 410—411.
- (註19) Feder 1965a : 16, Feder : 1970a : 294—295, Landon 1980 : 251 (Fürnberg-Morzin No.1 と名付けている)。
- (註20) Landon 1955 : 611, Feder 1965a : 15, Landon 1980 : 251 (Fürnberg-Morzin No.4 と名称を変更)。
- (註21) ロンドン記録帳の「イギリスでの作品目録」(註15参照) には、「ブロードリップのためのソナタ」

として6曲分の記述がある。しかし実際には、ブロードリップによるクラヴィーア・トリオの楽譜は3曲組が3種類、つまり Op. 70 (XV : 18—20), Op. 73 (XV : 24—26), Op. 75 (XV : 27—29) の9曲が存在する。これについてバルタは、記述にある6曲は Op. 70と73の6曲を指すと指摘している (Bartha 1965 : 555—557)。この説に従えば、Op. 75のブロードリップ版は、「イギリスでの作品目録」への記載という根拠を失い、真正な出版譜でない可能性が生ずる。しかし、グリーンガーの1799年5月22日付、および6月12日付手紙の記述から、ハイドンが1794年(「5年前」)からブロードリップと契約を結んでいる状態にあったことが推定される (Thomas 1966 : 56—57) ため、Op. 75のブロードリップ版楽譜も、Op. 70, 73 と同様に、直接契約による真正な出版譜である可能性がある。またタイソンは、XV : 32のプレストン版楽譜について、周辺状況からみて直接契約による真正な出版譜でありうると指摘している。Tyson 1962 : 203。

(註22) ブライトコップフ・ウント・ヘルテルは、1800～1806年にかけて12巻から成るハイドンのクラヴィーア作品の全集版 *Oeuvres Completttes* を出版した。この序文には「これまで不当にも私の名前を付けられてきた(他人の)作品や、私自身の若い頃の取るに足らない作品がこの曲集に入らないように配慮を惜しまないつもりです」というハイドン自身の言葉が含まれている。ブライトコップフは選曲にあたって、それまでに出ていたさまざまな出版譜(真正でないものを含む)からハイドンのクラヴィーア作品目録を作製し、ハイドンがそれに目を通して真偽の確認を行なった。しかし晩年のハイドンの記憶力の衰えに加えて、その校閲が冒頭楽譜のみによる表面的なものであったこと、第7巻までについてしか校閲を行なわなかったこと、そして編集者がハイドンの指示をどの程度拘束的なものとして受け取っていたか疑問であることから、この場合のハイドン自身による真作性の証明は弱いものとなっている (Larsen 1939 : 138—144)。実際、この校閲でハイドンが自作と認めた曲のうち、Hob. XV : 4 はイグナツ・プレイエル、Hob. XVI : 17はヨハン・ゴットフリート・シュヴァーネンベルガーの作品と考えられている (Tyson 1961, Schwarting 1965, Benton 1978, Steglich 1932, Feder 1963 : 99, Zürcher 1975)。また *Oeuvres Completttes* に含まれる曲のうち、第12巻の Hob. XV : 3 と 4 はイグナツ・プレイエルの作 (Tyson 1961, Schwarting 1965, Benton 1978)、同じく第12巻の Hob. XVI : 15 は6声ディヴェルティメント Hob. II : 11の別人による編曲 (Feder 1963 : 95) と考えられており、また第4巻の Hob. XVI : 47 についてはそのオリジナルな調性と版に疑問が提示されている (Larsen 1957, Feder 1963 : 99, Brown 1972 : 86—92, 大崎1980 : 17—20)。

(註23) Brook 1966. ブライトコップフ・カタログは真作性判断の根拠として十分なものではないが、作曲の下限年代を与えるという意味で重要である (Landon 1955 : 69)。

(註24) このコピストによる筆写譜の伝承されている作品には1760年以後の作という確証のある作品が全く含まれていない。よってこのコピストによる筆写譜の作品は1760年以前の作と推定できる (Feder 1970a : 308)。

(註25) 息子ヨーゼフ・エルスラー jr. の記録から、父ヨーゼフ・エルスラー sr. の活動開始時期は1764—65年と推定される (Bartha—Somfai 1960 : 411)。

(註26) ハイドンはオペラ「オルランド・パラディーノ」および「アルミーダ」の作曲を理由に、クラヴィーア・トリオ XV : 6—8 の作曲が遅れる旨、アルタリアに書き送っている (Bartha 1965 : 115,

129)。しかし「オルランド・パラディーノ」は1782年12月6日、「アルミーダ」は1784年2月26日にエステルハーザで上演されたため、1784年2月26日以降ハイドンはクラヴィーア・トリオを作曲可能な状態にあったといえる (Hoboken 1957 : 690)。

(註27) ある曲を基にして作られた編曲の年代が判明している場合、原曲の作曲年代はそれより前に位置づけられる。同様に原曲の年代が判明している場合、編曲の年代は原曲の年代よりもあとになるはずである。

(註28) フェーダーによれば、チェンバロの最高音が d^8 の曲で年代確認できる最も遅い曲は1767年のクラヴィーア・ソナタ Hob. XVI : 19, また f^8 まで使われている曲で年代確認可能な最も早い曲は1771年のクラヴィーア・ソナタ Hob. XVI : 20 である。また、 e^8 まで用いた最も早い確認作曲年代は、カンタータ “Qual Dubbio” Hob. XXIVa : 4 の1764年である (Feder 1963:101, Feder 1970b : IX)。

(註29) c 記号の用いられている曲で年代確認できる最も早い曲は1771年のクラヴィーア・ソナタ Hob. XVI : 20 である (Feder 1970b : IX)。

(註30) 表1, 表2で用いた略号を用いる。自筆譜, 筆写譜については [] 内に所蔵図書館の略号 (New Grove による), 出版譜については出版社の略号 (Art=Artaria, B & H=Breitkopf & Härtel, Bl=Bland, For=Forster, Hum=Hummel, L & B=Longman & Broderip, OC=Oeuvres Compettes (Breitkopf & Härtel), Pr=Preston) を記す。また手紙における記述については, Bartha 1965における書簡番号 (例えば 30) を BB30 という略号で示す。編曲, 転用の内容は, 矢印で (原曲→編曲) を表わし, どちらが編曲が不明の場合は = で示す。データの内容は註11にあげた文献, および各曲の現代版校訂楽譜 (表3) の校訂報告による。

(註31) ポールのメモには2つのヴァイオリンをもつ編成が記されている。Hoboken 1957 : 724, Stockmeier 1971 : 9。

(註32) Hoboken 1978 : 340において付加的に番号づけされた。

(註33) ブライトコップフ・カタログ (1772年) とチェコの筆写譜 [CS-KRa] は弦楽つきの編成であるのに対して, ウィーンの2つの筆写譜 [A-Wgm] はクラヴィーア・ソナタ版である。フェーダーは, 音楽的根拠により伴奏つきの版に優位性を与え, New Grove の作品表ではこの版のみを扱っている。Hoboken 1957 : 678, Brook 1966 : 477, Feder 1963 : 93, Feder 1980 : 387。

(註34) フェーダー, ゲルラッハ, およびヴァルターは, EK 23 ページに記入されている Hob. XIV : 2 (クラヴィーア, バリトン, 2つのヴァイオリン: 現在消失) がおそらくハイドンがバリトン用作品を作曲し始めた1765年以降に作曲され, これを原曲としてバリトン・トリオ Hob. XI : 103/I, II (1772/73), バリトン・ソロ作品 Hob. XII : 13/III (1770年代: 現在消失), およびクラヴィーア・トリオ XV : 2 に編曲されたと指摘している。これに対してランドンは, バリトン・トリオ Hob. XI : 103 (1772年頃) およびバリトン・ソロ作品 Hob. XII : 13から, Hob. XIV : 2 (1772年頃), さらに XV : 2 (1785年) が編曲されたという見解を示している (Feder 1970a : 293, 309, Gerlach 1969 : VI, Walter 1968, Landon 1970 : 7)。しかしランドンの説では, EK に書き込まれた Hob. XIV : 2 の成立年代 (1772年頃) と EK の該当部分の作製年代 (1765—67年頃) との間に矛盾が生じる。Lassen 1939 : 218 および Larsen 1979 : x 参照。

- (註35) XV : 15—17 の 3 曲は、初版においてクラヴィーア、フルート、チェロ用と指定されている。但し XV : 17 の初版の声部表示箇所には「フルートまたはヴァイオリン」と書かれている。Hoboken 1957 : 699, 701, Stockmeier 1975 : 29, 31, 34.
- (註36) XV : 26/II と Hob. I : 102/II (1794年) について、ラールセンは前者を原曲、ランドンは後者を原曲と考えている。Larsen 1939 : 132, Landon 1976a : 409.
- (註37) ブロードリップ版の広告日付を、ランドンは1797年3月20日と記している。Landon 1977 : 199.
- (註38) ホーボーケンとタイソンは XV : 32 について、クラヴィーア・トリオ版が真正であり、ヴァイオリン・ソナタ版よりも早いとしている。これに対してラールセンは、ヴァイオリン・ソナタ版が早い時期に流布し、また *Oeuvres Completttes* にも採用されている点から、どちらの版が真正かは未だ疑問であると指摘している。Hoboken 1957 : 717—718, 727, Tyson 1962, Larsen 1979 : xviii. またランドンは、アルタリア版（ヴァイオリン・ソナタ版）について、1794年ロンドンに出発する前に、ハイドン自身がアルタリアに出版用の楽譜を渡していた可能性があるとは指摘している。Landon 1976a : 410.
- (註39) ランドンの校訂楽譜（DM）では、この4曲をクラヴィーア・トリオとして取り上げている。これに対してフェーダーは、XV : 39, XIV : 6, XV : 42 を、クラヴィーア・ソナタ Hob. XVI : 9 と 5, XVI : 6, およびクラヴィーア作品 Hob. XVII : 7 からのハイドン以外の手による編曲とし、また XIV : C1 をチェンバロ、2つのヴァイオリン、バスの四重奏編成のうち第1ヴァイオリン声部の欠落したものと指摘している。Feder 1970a : 306—307, Landon 1976b.
- (註40) ヴァルターによれば、ハイドンが所有していた鍵盤楽器は1780年以前はチェンバロ、1780—88年はチェンバロまたはピアノ・フォルテであったと考えられる。1788年にはピアノ・フォルテを購入した記録があり、よってそれ以後はピアノ・フォルテを所有していたことが確実である。また1791年以降、ハイドンはロンドンでイギリス式の異なる機構のピアノ・フォルテを知る機会を得た。Walter 1970 : 260—273.
- (註41) この項については LaRue 1970 : 1—22 参照。
- (註42) Rule of Three（三数法）は、一般的には単比例の関係 $a : b = c : d$ について3項がわかれば他の1項も判明することを言う（一松 1979 : 37）が、ここでは真、偽の他に真でも偽でもないという第3の真理値を認める three-valued logic（3値論理）を指していると思われる（岩波数学辞典 : 395）。実際には、主観的判断を含む評価において yes, no, maybe の3つのカテゴリーで判定していくことを言う。
- (註43) ラルーは、18世紀当時の音楽理論書の内容と彼の方法論との関係あるいは位置づけについては全く言及していない。
- (註44) ピーター・ブラウンも cyclic level を独立させて扱っている（Brown 1981 : 53—）。cyclic level は、ラルーの言う large dimension の中で、曲全体に関する、より外面的、外形的な特徴に注目する見方ということができる。
- (註45) 大宮1980 : 2—4のシンボルに加えて、形式を示す副次シンボル（S = ソナタ形式, 3 =（複合）3部形式, R = ロンド形式, V = 変奏形式）を右肩に付記する。
- (註46) LaRue 1970 : 153—172.

- (註47) E (Exposition), D (Development), R (Recapitulation) (以上 Brown 1981 : 58), および N (New Section) を用いる。
- (註48) ピーター・ブラウンの言う authentic (完全終止)—masculine (男性終止)—perfect (ソプラノにトニカの音がある) cadence を AMP と略記する。Brown 1975 : 104.
- (註49) XV : 14の終楽章は「ロンド」という表示をもつが、内容に従ってソナタ形式として扱う。
- (註50) 表9においては、様式的相関性の強いグルーピングは番号を近づけ、弱いグルーピングは番号を離して記した。
- (註51) Feder 1965b : IX, Walter 1970 : 269—70 (当時イギリスのピアノ・フォルテは、機構上進歩的であり、最高音 a^3 を持つピアノはまだウィーンやベルリンにはみられなかった)。

参 考 文 献

Bartha, Dénes :

1965 Joseph Haydn. Gesammelte Briefe und Aufzeichnungen. Bärenreiter, Kassel.

Bartha, Dénes & Somfai, László :

1960 Haydn als Opernkapellmeister—die Haydn Dokumente der Esterhazy-Opernsammlung. Ungarische Akademie der Wissenschaften, Budapest.

Becker-Glauch, Irmgard :

1970 Neue Forschungen zu Haydns Kirchenmusik. In : Haydn-Studien II, 167—241.

Benton, Rita :

1978 A Resumé of the Haydn-Pleyel “Trio Controversy” with Some Added Contributions. In : Haydn-Studien IV/2, 114—117.

Brook, Barry S. :

1966 The Breitkopf Thematic Catalogue. The Six Parts and Sixteen Supplements. 1762—1787. Dover, New York.

Brown, A. Peter :

1972 Problems of Authenticity in two Haydn Keyboard Works. (Hoboken XVI : 47 and XIV : 7) In : JAMS 25/1, 85—97.

1975 The Structure of the Exposition in Haydn's Keyboard Sonatas. In : MR 36/2, 102—129.

1981 The Symphonies of Carlo d'Ordonz : A Contribution to the History of Viennese Instrumental Music during the Second Half of the Eighteenth Century. In : Haydn-Jb 12, 5—121.

Feder, Georg :

1963 Probleme einer Neuordnung der Klaviersonaten Haydns. In : Festschrift Friedrich Blume zum 70. Geburtstag. Anna Amalie Abert und Wilhelm Peannkuch (ed.), Bärenreiter, Kassel. 92—103.

1965a Die Überlieferung und Verbreitung der handschriftlichen Quellen zu Haydns Werken. Erste Folge. In : Haydn-Studien I, 3—42.

- 1965b Vorwort zur JHW XVIII/3 (Klaviersonaten III)
- 1970a Haydns frühe Klaviertrios—Eine Untersuchung zur Eeitheit und Chronologie. In : Haydn-Studien II/4, 289—316.
- 1970b Vorwort zur JHW XVIII/1 (Klaviersonaten I)
- 1980 Haydn. Works. In : New Grove vol.8, 360—401.

Gerlach, Sonja :

- 1969 Vorwort zur JHW XIII (Werke für Baryton)

林 健太郎 :

- 1970 史学概論〔新版〕有斐閣教養全書, 東京. (旧版 1952)

Hoboken, Anthony van :

- 1957 Joseph Haydn. Thematisch-bibliographisches Werkverzeichnis. Bd.1 (Instrumentalwerke). Schott, Mainz.
- 1978 Joseph Haydn. Thematisch-bibliographisches Werkverzeichnis. Bd.3 (Register, Addenda und Corrigenda). Schott, Mainz.

一松 信(他) :

- 1979 新数学事典. 大阪書籍, 大阪.

Landon, H. C. Robbins :

- 1955 The Symphonies of Joseph Haydn. Universal Edition & Rockliff, London.
- 1957 Eine aufgefundenene Haydn-Messe. In : ÖMz 12, 183—185.
- 1959 Problems of Authenticity in Eighteenth-Century Music. In : Instrumental Music. A Conference at Isham Memorial Library Harvard University. May 4. 1957. (ed. by David G. Hughes), (Harvard University Press, Cambridge(Mass.), 1959) R : Da Capo Press, New York, 1972, 31—56,
- 1968 Haydniana (I). In : Haydn-Jb 4, 199—206.
- 1970 Die Klaviertrios von Joseph Haydn. Vorwort zur ersten kritischen Gesamtausgabe. DM. D. 13. 600. Doblinger, Wien/München.
- 1976a Haydn. Chronicle & Works. vol.3 (Haydn in England 1791—1795). Indiana University Press, Bloomington (Ind.) and London.
- 1976b Joseph Haydn. Klaviertrio No.3 (or 4, 15, 16). Vorwort. DM Nr.523 (or 524, 533, 534), Doblinger, Wien/München.
- 1977 Haydn. Chronicle & Works. vol.4 (Haydn : The Years of 'The Creation' 1796-1800). Indiana University Press, Bloomington (Ind.) and London.
- 1978 Haydn. Chronicle & Works. vol.2(Haydn at Eszterháza 1766—1790). Indiana University Press, Bloomington (Ind.) and London.
- 1980 Haydn. Chronicle & Works. vol.1 (Haydn : the Early Years 1732—1765). Indiana University Press, Bloomington. (Ind.) and London.

Larsen, Jens Peter

- 1939 Die Haydn-Überlieferung. Einar Munksgaard, Kopenhagen.
- 1941 Drei Haydn Kataloge in Faksimile. Einar Munksgaard, Kopenhagen.
- 1957 Eine bisher unbeachtete Quelle zu Haydns frühen Klavierwerken. In : Festschrift Joseph Schmidt-Görg zum 60. Geburtstag. Dagmar Weise (ed.), Beethovenhaus, Bonn. 188—195.
- 1972 Über Echtheitsprobleme in der Musik der Klassik. In : Mf 25, 4—16.
- 1979 Three Haydn Catalogues (Drei Haydn Kataloge). Second Facsimile Edition with a Survey of Haydn's Oeuvre. Pendragon Press, New York.
- LaRue, Jan :
- 1957 A System of Symbols for Formal Analysis. In : JAMS 10. 25—28.
- 1970 Guidelines for Style Analysis – A Comprehensive Outline of Basic Principles for the Analysis of Musical Style. Norton, New York.
- 大宮真琴 :
- 1980 楽章構成からみた18世紀の交響曲(1). In : お茶の水女子大学附属中学校紀要 第9集, 1-15.
- 大崎滋生 :
- 1980 J・ハイドンの初期クラヴィーア・ソナタの信憑性について, In : 桐朋学園研究紀要 第6集, 1-25.
- ! Pfannhauser, Karl :
- 1959 Mozarts kirchenmusikalische Studien im Spiegel seiner Zeit und Nachwelt. In : KJb 43, 155—198.
- Schenk, Erich :
- 1960 Ist die Göttweiger Rorate-Messe ein Werk Joseph Haydns? In : StMw 24, 87—105.
- Schwarting, Heino :
- 1965 Über die Echtheit dreier Haydn-Trios. In : AfMw 22/3, 169—182.
- Steglich, Rudolf :
- 1932 Eine Klaviersonate Johann Gottfried Schwanbergs (Schwanenberg [er] s) in der Joseph Haydn-Gesamtausgabe. In : ZfMw 15, 77—79.
- Stockmeier, Wolfgang :
- 1971 Kritischer Bericht der JHW XVII/1 (Klaviertrios I).
- 1975 Kritischer Bericht der JHW XVII/2 (Klaviertrios II).
- Thomas, Günter :
- 1966 Griesingers Briefe über Haydn. In : Haydn-Studien I/2, 49—114.
- 徳丸吉彦 :
- 1982 分析. In : 音楽大事典 第4巻, 2215—2216.
- Tyson, Alan :
- 1961 Haydn and two stolen Trios. In : MR 22, 21—27.
- 1962 New Light on an Haydn Trio (XV : 32). In : Haydn-Jb 1, 203-205.

Walter, Horst :

- 1968 Vorwort zur JHW XIV/5 (Barytontrios 97—126).
1970 Haydns Klaviere. In : Haydn-Studien II/4, 256—288.

Webster, James :

- 1981 External Criteria for Determining the Authenticity of Haydn's Music. In : Haydn Studies
(ed. by Jens Peter Larsen, Howard Serwer, and James Webster), Norton, New York,
75—78.

横田みどり :

- 1982 Joseph Haydns frühe Klavier-Ensemble-Werke und -Konzerte : eine Stiluntersuchung.
In : お茶の水女子大学 音楽研究 3, 1—56.

Zürcher, Johann :

- 1975 Johann Gottfried Schwanenberger. Acht Sonaten für Cembalo. In : Mf 28, 429—431.

逐次刊行物, 楽譜, および辞典の略号

AfMw	Archiv für Musikwissenschaft. Franz Steiner, Wiesbaden.
DM	Diletto Musicale. Doblingers Reihe alter Musik. Doblinger, Wien/München.
Haydn-Jb	The Haydn Yearbook (Das Haydn Jahrbuch) University College Cardiff Press, Cardiff.
Haydn-Studien	Haydn-Studien. Joseph Haydn-Institut (ed.), Henle, München-Duisburg.
岩波数学辞典	岩波数学辞典. 第2版, 日本数学会編, 岩波書店, 東京, 1968
JAMS	Journal of the American Musicological Society. American Musicological Society (ed.), Philadelphia.
JHW	Joseph Haydn : Werke. Joseph Haydn-Institut(ed.), Henle, München-Duisburg.
KJb	Kirchenmusikalisches Jahrbuch. Allgemeine Cäcilien-Verband für die Länder der deutschen Sprache (ed.), Luthe, Köln.
Mf	Der Musikforschung. Gesellschaft für Musikforschung (ed.), Bärenreiter, Kassel.
MR	Music review. Heffers Printers Ltd., Cambridge.
New Grove	The New Grove Dictionary of Music and Musicians. 20 vols. Stanley Sadie (ed.), Macmillan, London, 1980.
音楽大事典	音楽大事典 全6巻, 平凡社, 東京, 1981—.
ÖMz	Österreichische Musikzeitschrift. Elisabeth Lafite, Wien.
StMw	Studien zur Musikwissenschaft. Hans Schneider, Tutzing.
ZfMw	Zeitschrift für Musikwissenschaft. Deutsche Gesellschaft für Musikwissenschaft (ed.), Breitkopf & Härtel, Leipzig.

表 1 真作性評価の根拠となる伝承

評価 伝承の種類	A	A? (註13)	B	B? (註13)
自 筆 譜 aut	A 自筆譜 A(lost) 自筆譜が現在 消失しているが以 前に存在した記録 がある A(frag) 自筆譜断片 SK 自筆スケッチ			
カ タ ロ グ (作品目録) cat	EK エントヴルフ・カ タログへの記載(註14) LN ロンドン記録帳の カタログへの記載 (註15)	HV ハイドン作品目録 への記載(註16)		GÖ ゲットヴァイク僧 院のカタログへの 記載(註17)
筆 写 譜 ms	RC 自筆訂正入りの筆 写譜 SC 自筆署名入りの筆 写譜		JE ヨーゼフ・エルス ラー ^{sr} (註18)による 筆写譜 F ブダペスト・フェ ルンベルク・コレク ションのコピスト (註19)による筆写譜 W ウィーン職業コピ ストNo2(註20)によ る筆写譜	GÖ ゲットヴァイク僧 院に伝わる筆写譜 (註17)
出 版 譜 ed	OE ハイドンとの直接 契約による出版譜	OE?おそらく OE であ ると推定される出 版譜(註21) OC ブライトコップフ Oeuvres Comple- ttes(作品全集)(註22)		

表 2 作曲年代の示唆を与える伝承

伝 承 種 類	内 容
自 筆 譜 aut	ハイドンによる年代記入 用いられた紙の種類とすかし (P)
カ タ ロ グ cat	ロンドン記録帳のカタログ(1791年1月2日から1795年までの作品を含む) (LN) ブライトコップフ・カタログ掲載年(註23) (Br)
筆 写 譜 ms	筆写譜に記入された年代 フェルンベルク・コピストによる筆写譜(=おそらく1760年以前の作品)(註24) (F) ヨーゼフ・エルスラー ^{sr} による筆写譜(=おそらく1764年以降に筆写)(註25) (JE)
出 版 譜 ed	出版年 広告掲載年月日 版權登録年月日
記 録 doc	手紙、その他における関係記述 (BB)
周 辺 状 況 cir	作曲の障害となっていたオペラの完成(註26) (Armida)
編曲、転用 arr	転用されてできた編曲の年代(註27) 典拠として用いられた原曲の年代(註27)
楽 器 用 法 ins	チェンバロ声部の音域(註28) (d ³ , e ³ , f ³)
記 譜 法 not	の記号の有無(註29) (∞)

表 3 ハイドン・クラヴァー・トリオ作品表

	作品番号 Hob.(調)	楽 器 編 成	真 作 性	根拠となる伝承	伝承による成立年代データ				様式考察に 用いる楽譜	楽譜の 信頼性
					根 拠	上 限	(推定)	下 限		
初 期	XV: 1 (g)	Cemb. VI. Bass	A?	ed [OC]			-	1766	JHW XVII/1	a?
	XV: 33 (D)	Cemb. VI. Bass	C				-	1771	verschollen	
	XV: 34 (E)	Cemb. VI. Bass	B	msF [CS-KRa]			-	1760	JHW XVII/1	b
	XV: 35 (A)	Cemb. VI. Bass	B	msW, JE [H-Bn]			-	1771	JHW XVII/1	b
	XV: 36 (Es)	Cemb. VI. Bass	B?	ms+cat GÖ	ins e ³		(c1764)	1767	JHW XVII/1	b?
	XV: 37 (F)	Cemb. VI. Bass	C				-	1766	JHW XVII/1	c
	XV: 38 (B)	Cemb. VI. Bass	C				-	1767	JHW XVII/1	c
	XV: 40 (F)	Cemb. VI. Bass	C				-	1766	JHW XVII/1	c
	XV: 41 (G)	Cemb. VI. Bass	B	msW [CS-KRa]			-	1767	JHW XVII/1	b
	XV: C1 (C)	Cemb. VI. Bass	C				-	1766	JHW XVII/1	c
	XV: D1 (D)	Cemb. (2?)VI. (^{♯31}) Bass	C				-	1771	verschollen	
	XV: f1 (f)	Cemb. VI. Bass	B	msF [CS-KRa]			-	1760	JHW XVII/1	b
	XV: 39 (F)	Cemb. VI. Bass	C				-	1766	DM 524	c
	XV: 42 (D) (^{♯32})	Cemb. VI. Bass	C				-	1766	DM 533	c
	XIV: 6 (G)	Cemb. VI. Bass	C				-	1766	DM 523	c
	XIV: C1 (C)	Cemb. (2)VI. (^{♯33}) Bass?	C				-	1767	DM 534	c
	XV: 2 (F) (^{♯34})	Cemb. VI. Bass	A	cat EK	ins f ³	1767	-	1771	JHW XVII/1	a
後 期	XV: 5 (G)	Cemb/Pf VI. Vc.	A	aut A (frag) [D-B]			-	25.10.1784	JHW XVII/2	a
	XV: 6 (F)	Cemb/Pf VI. Vc.	A	aut A (frag-lost)	cir Armida	26. 2.1784	-	1784	JHW XVII/2	a
	XV: 7 (D)	Cemb/Pf VI. Vc.	A	aut A (frag) [Wien, Hassfurth]	aut A (frag)	1785	-	26.11.1785	JHW XVII/2	a
	XV: 8 (B)	Cemb/Pf VI. Vc.	A	ed OE [Art]	cir Armida	26. 2.1784	-	26.11.1785	JHW XVII/2	a
	XV: 9 (A)	Cemb/Pf VI. Vc.	A	aut A [D-B]	aut A [D-B]	1785	-	28.10.1785	JHW XVII/2	a
	XV: 10 (Es)	Cemb/Pf VI. Vc.	A	ms RC [GB-Lbm]			-	28.10.1785	JHW XVII/2	a
	XV: 11 (Es)	Pf. VI. Vc.	A	ed OE [Art]	doc BB108	17. 8.1788	-	8. 3.1789	JHW XVII/2	a
	XV: 12 (e)	Pf. VI. Vc.	A	ed OE [Art]	doc BB108	17. 8.1788	-	8. 3.1789	JHW XVII/2	a

後 期	XV: 13 (C)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [Art]	doc BB112	16.11.1788	—	29. 3.1789	doc BB118	JHW XVII/2	a
	XV: 14 (As)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [Art]		—	—	11. 1.1790	doc BB137	JHW XVII/2	a
	XV: 15 (G) (#35)	Pf.		Vc. Fl.	A	ed OE [Bl]	doc BB138	13. 1.1790	—	6. 5.1790	doc BB143b	JHW XVII/2	a
	XV: 16 (D) (#35)	Pf.		Vc. Fl.	A	ed OE [Bl]	doc BB138	13. 1.1790	—	6. 5.1790	doc BB143b	JHW XVII/2	a
	XV: 17 (F) (#35)	Pf.		Vc. Fl.	A	aut A (SK) [Baroness Schey]	doc BB138	13. 1.1790	—	20. 6.1790?	doc BB149	JHW XVII/2	a
	XV: 18 (A)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [L&B]	cat LN	2. 1.1791	—	15.11.1794	ed OE [L&B]	DM 482	a
	XV: 19 (g)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [L&B]	cat LN	2. 1.1791	—	15.11.1794	ed OE [L&B]	DM 483	a
	XV: 20 (B)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [L&B]	cat LN	2. 1.1791	—	15.11.1794	ed OE [L&B]	DM 484	a
	XV: 21 (C)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [Pr]	cat LN	2. 1.1791	—	23. 5.1795	ed OE [Pr]	DM 485	a
	XV: 22 (Es)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [Pr]	ms RC (frag) [H-Bn]	(c1794)	23. 5.1795	23. 5.1795	ed OE [Pr]	DM 486	a
	XV: 23 (d)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [Pr]	cat LN	2. 1.1791	—	23. 5.1795	ed OE [Pr]	DM 487	a
	XV: 24 (D)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [L&B]	cat LN	2. 1.1791	—	9.10.1795	ed OE [L&B]	DM 488	a
	XV: 25 (G)	Pf.	VI.	Vc.	A	aut (SK-frag) [Marburg, Stargardt]	aut A (SK-frag) P	1794	—	9.10.1795	ed OE [L&B]	DM 489	a
	XV: 26 (fis)	Pf.	VI.	Vc.	A	ed OE [L&B]	arr II=I;102 /II(1794) (#36)	(c1794)	9.10.1795	9.10.1795	ed OE [L&B]	DM 490	a
	XV: 27 (C)	Pf.	VI.	Vc.	A?	ed OE? [L&B]		—	20. 4.1797 ^(#37)	20. 4.1797	ed OE? [L&B]	DM 493	a?
	XV: 28 (E)	Pf.	VI.	Vc.	A?	ed OE? [L&B]		—	20. 4.1797 ^(#37)	20. 4.1797	ed OE? [L&B]	DM 494	a?
	XV: 29 (Es)	Pf.	VI.	Vc.	A?	ed OE? [L&B]		—	20. 4.1797 ^(#37)	20. 4.1797	ed OE? [L&B]	DM 495	a?
	XV: 30 (Es)	Pf.	VI.	Vc.	A	aut A (frag) [US-NYpm]	doc BB212	16. 4.1796?	—	9.11.1796	doc BB213	DM 492	a
	XV: 31 (es) (#38)	Pf.	VI.	Vc.	A	aut A [Alberman]	aut AP	15. 8.1795	—	1795	aut A	DM 491	a
	XV: 32 (G)	Pf.	VI.	Vc. (?)	A	cat LN	doc BB174	2. 3.1792?	—	14. 6.1794	ed [Art]	DM 481	a?

表 4 観察レベル、要素、アプローチの相互関係

観 察 レ ベ ル	観 察 の 要 素					
	Sound	Harmony	Melody	Rhythm	Growth	5要素による shape
cyclic level 曲 全 体	チェック・シートに記述					楽章構成モデル 作 製
large dimension 一つの楽章						楽章モデル作製
middle dimension セクション内 (提示部など)	タイム・ラインに記述					E(D、R)モデル 作 製
small dimension 構造的機能を もつフレーズ						Pモデル作製
	記 述					モデル化
	ア プ ロ ー チ の 方 法					

表 5 チェック・シート

要素	楽 章 チェック項目	I	II	III	IV
G	小 節 数 テンポと性格、形式を 表わすシンボル(註45)				
H	調 二次的な調 三次的な調 転調方法 {				
M	モティーフの関連				
R	ゲネラル・パウゼ ヘミオラ fzによる弱拍の強調				
S	鍵盤楽器に ソロ部分がある 通奏低音部分がある 書法 { ユニゾン カノンの				

tem Allegro moderato	met 2/4	key A_s	mov I	sec E	no 14	gen XV	com Hay
----------------------	---------	-----------	-------	-------	-------	--------	---------

E(82)									
G	P(23)	T(17)	S(33)	K(19)	T(17)	S(33)	K(19)	T(17)	P(23)
	1	24	41	74					
	a b(=0) c d x y z (a) (c)	a	a b x y z y(12) z y(12) z	a b					
	4 2 4 2 6 5	12	4 3 4 5 3 3 8	5 4					
H	A ₅ V I W V-I								
		f - E ₅ V-I	V-I	V-I					
M	1m 1m 1m 2m 2m	3mh	(=Poz y) 2mP 3mhT 4m 5m	7m 3mh 6m					
R									
S	K(=Vn) K Vn+K K+Vn	K	K(=Vn) K Solo						

図 1 楽章構成モデル

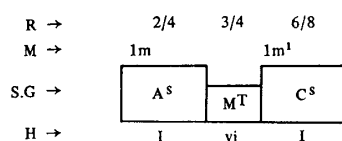


図 2 楽章モデル

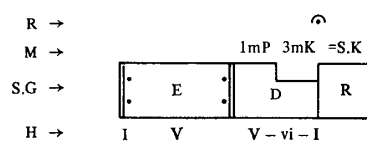


図 3 Eモデル、Rモデル

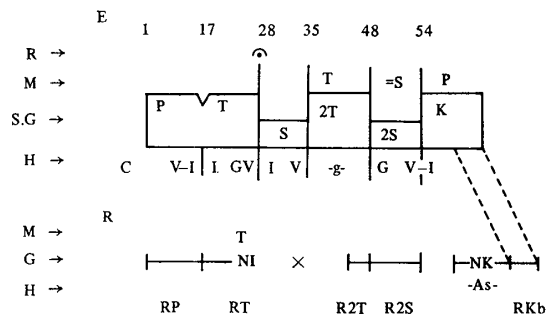


図 4 Dモデル

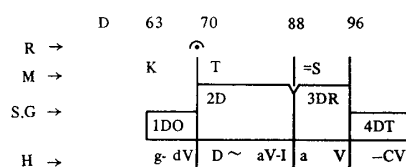


図 5 Pモデル

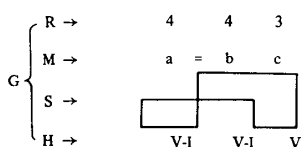


表 7 チェック・リスト

			観 察 レ ベ ル			large						middle			
			観 察 要 素			G			M			S		E	
						(1)			(2)			(3)		(4)	
作 品 番 号	作 品 の 真 作 性	楽 譜 の 信 頼 性	チェック項目			モ デ ル			EとNのモテ ィーフ関連		EとNの 音色の対照			～	
			伝承による 作曲年代データ			A	B	C	あり	なし	楽 器	強 弱	書 法		
			～以降	～(頃)	～以前										
1	A	a		1765		○			○		○				
2	B	c			1767		○			○			○		
3	C	c			1770			○	○				○		
4	A	a	1764		1767	○			○			○			

チェック リスト 1 cyclic level					観 察 レ ベ ル			cyclic																										
					観 察 要 素			G																										
					項 目 番 号			(1)																(2)										
年 代 区 分	様 式 グ ル ー プ	作 品 番 号 Hob. XV:	作 品 の 真 作 性	楽 譜 の 信 頼 性	チェック項目 伝承 による 成立年代データ			モデル																II-III 楽 章 連 続										
					～以降	～(頃)	～以前	AS I	MT I	C I	AS I	MT I	BV I	AS I	C ^{3M} I	B I	B I	C ^R I	BV I	B ^S I	C ^S I	bVI I	B I(i)		A I	AS I	B I	C ^R I	AS I	B I	C ^S I	AS I	B I	C ³ I
初 期	1	37	C	c																														
		36	B ?	b ?																														
		38	C	c																														
		f1*	B	b																														
		34*	B	b																														
		C1	C	c																														
		2*	A	a	1767																													
		41	B	b																														
		40	C	c																														
		1	A ?	a ?																														
		35*	B	b		c. 1764																												
	2	XIV:C1	C	c																														
		39	C	c																														
		XIV:6	C	c																														
42		C	c																															
後 期	3	5	A	a																														
		6	A	a			1784																											
		7	A	a			1785																											
		8	A	a	1784																													
		9	A	a			1785																											
		10	A	a																														
		11	A	a	1788																													
		12	A	a	1788																													
		13	A	a	1788																													
		14	A	a																														
		15	A	a			1790																											
		16	A	a			1790																											
		17	A	a			1790																											
		32	A	a ?	1792?																													
	4	18	A	a	1791																													
		19	A	a	1791																													
		21	A	a	1791																													
		23	A	a	1791																													
		25	A	a	1794																													
	5	20	A	a	1791																													
		22	A	a		1794?																												
		24	A	a	1791																													
		26	A	a	1791	1794?																												
		27	A ?	a ?																														
		28	A ?	a ?																														
		29	A ?	a ?																														
		30	A	a		1796																												
		31	A	a		1795																												

	H									R									S
	(3)					(4)			(5)	(6)			(7)		(8)		(9)	(10)	
作品番号 Hob. XV:	中間楽章の調 (主調との関係)					転 調 種 類			減七和音の効果的使用	C			G.P.		セクション区切り目における 同一モチーフのくり返し	" (拡大を伴う)	へミオラ	fzによる弱拍強調	" (連続的)
	同調	(下)属調	同主調	短6度 長調	平行調の 同主調	i-bVII (c-As)	I-bVII (C-As)	エンハー モニック		区 分 効果	緊 張 効果	カデンツァを 導く	区 分 効果	緊 張 効果					
37	○											○							
36	○																		
38	○																		
f1*	○																		
34*	○																		
Cl	○																		
2*	○																		
41	○	IV																	
40	○																		
1	○																		
35*	○																		
XIV:Cl	○																		
39		V																	
XIV:6			○									○							
42	○																		
5	○										○								
6	○						○				○	○		○	○	○	○		
7	○		○					○		○		○		○	○	○			○
8	○									○				○	○	○			○
9	○									○				○	○	○	○		○
10	○									○				○	○	○			○
11	○									○				○	○	○			○
12			○							○				○	○	○			○
13			○							○				○	○	○			○
14								○		○				○	○	○	○		○
15		IV								○				○	○	○	○		○
16			○							○				○	○	○			○
17	○									○				○	○	○			○
32	○									○		○				○			○
18			○				○		○			○							○
19				○						○				○	○				○
21		V		○						○				○	○				○
23				○						○		○							○
25					○					○		○							○
20					○					○		○							○
22							○		○			○							○
24			○				○		○			○		○	○				○
26			○				○		○			○							○
27					○		○		○			○				○			○
28			○				?		○			○				○		○	○
29				○					○			○					○		○
30					○				○			○							○
31			○						○			○							○

	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)		
作品番号 Hob. XV:	fp の交代が 激しい	Klavier							VI		Vc			texture				
		ソ ロ 部 分	通 奏 低 音	長 い tr 音 型	細 かい 連 音 符	自 由 な 部 分	オ ク タ ー ブ 前 打 音	手 の 交 叉	独 自 の 音 型 が ない	pizz	鍵盤左手と 比べて			pizz	ユ ニ ゾ ン	カ ノ ンの 的	対 旋 律 付 加	各 声 部 異 なる モ テ ー フ
											小異同	休止部あり	独自					
37			○															
36			○								○							
38			○								○					I		
f1*			○								○							
34*		○	○								○							
Cl		○	○								○					Trio		
2*			○					○		○			○					
41			○								○							
40			?	○							○							
1				○							○							
35*				○							○					Trio		
XIV:Cl											○							
39											○		○					
XIV:6				○							○		○					
42									○							Cembf:VI Cembf:Vc		
5		○									○	○		○			○	
6		○		○							○	○		○			○	
7		○		○		○				○	○	○	○	○				
8		○		○							○	○		○				
9		○		○			○				○	○		○				
10		○		○							○	○		○			○	
11		○									○	○		○				
12		○			○					○	○	○		○				
13		○			○						○	○		○				
14		○			○						○	○		○				
15		○									○	○		○				
16		○					○				○	○		○				
17		○			○						○	○		○			○	
32		○								○	○	○		○			○	
18		○			?					○	○	○		○			○	
19		○			○						○	○						
21		○		○			○				○	○		○				
23		○			○	○	○				○	○		○			○	
25		○								○	○	○						
20		○			○		○				○	○		○			○	
22	○	○			○			○			○	○		○				
24	○	○						○			○	○			○			
26	○	○						○			○	○						
27	○	○				○	○	○			○	○		○			○	
28	○	○			○	○	○	○		○	○	○		○				
29	○	○		○	○	○	○	○			○	○		○			○	
30		○				○		○		○	○	○					○	
31		○			○	○		○			○	○						

チェック リスト2 ソナタ形式急速楽章 (第1、第2楽章)						観 察 レ ベ ル			large																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
						観 察 要 素			G										H																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						項 目 番 号			(1)			(2)				(3)			(4)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
年代 区 分	様 式 グ ル ー プ	作 品 番 号 Hob. XV:	作 品 の 真 作 性	楽 譜 の 信 頼 性	チェック項目 伝承による 成立年代データ			拍子と小節数			モ デ ル				プロポーション			調構成プラン																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					～以降	～(頃)	～以前	¾	¼	½	♯E♯DR(NK)∥	♯E♯DR∥	O♯E♯DR(NK)∥	(1/2) ♯E♯DR(NK)∥	E>D<R	E>D>R	E<D>R	I-V-(x)-I	I-V-x-I	I-V-x-y-I D内																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
第 一 楽 章	初 期	1	36	B?	b?			1767	97			○					○		○			○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

作品番号 Hob. HV.	middle										small										
	E										P										
	[G]					[H]				[R]		[G]				[M]	[S]				
	(5)					(6)				(7)	(8)	(9)				(10)	(11)				
	モデル (表8)					最初のAMP(註8)の位置				同一伴奏リズム保持	伴奏リズムの変化	旋律リズム単位の変化	モデル (表8)				伴奏モチーフ	P			
A	B	C	D	E	P内	PT間	T内	S, K	A				B	C	D	Pa: Cemb / Pf Pb: VI		VIと Cemb 対旋律	Cemb 又は Pf のみ	3 楽器の組み合わせ	和音
36										○	○					○	(○)				
34*	A1									○	?			○		○	○				
38	A2									○	?			○		○	○				
Cl	A2									○	○			○		○	○				
fl *	A1									○				○		○	○				
40	A2					○				○				○		○	○				
41	A1									○				○		○	○				
1	A2									○				?		○	○		○		
2 *	A3					○										○	a: VI b: Cemb	○			
35*						○				○								○			
39								○													
XIV:6									○			○									
6			C1			○								○		Pa					
8						○										Pbc					
10	○							○								D1			○		
11		○	C1					○											○		
12		○						○											○		
14			C2					○								D2					
15			C2			○											a: VI b: Pf				
16				○				○								D1	○		○		
17			C1					○												Solo	
18			C3?			○															
20				○		○											?				
21			C2					○								D1					
22			C3					○								D1					
24				○				○								D1				○	
26									○							D1?				○	
27				○				○								D2				○	
28			C3			○														○	
30				○				○												○	
37									○	○				○			○				
5						○				○					○		Pb				
9			C2			○											○				
13				?		○											Pax				
32							○									D2?					

	small					middle		small					middle												
	P			K		R		RP	RT		R2TN	NK	D												
	S			M		G		G	G	H	G	G	G			H			M						
	(12)			(13)	(14)	(15)	(16)		(17)	(18)	(19)	(20)	(21)		(22)			(23)			(24)		(25)	(26)	
作品番号 Hob. HV.	P内の変化			細かい伴奏音型	リズム・モチーフ	Ka Kb	モデル (表8)		RPN	RTN	調変化含む	R2TNがある	付加 (RKのあと)	挿入 (RKの中)	モデル(表8)			開始調			第3次調		新モチーフ	既出モチーフの新しい組合せ	
	楽器	強弱	音質				a	c							A	B	C	Sの調I度	属短調I度	その他の調のV度	カデンツのみ	安定部分			二つ以上
36	(○)															○									○
34*	○			○			a1		○						?		○						○		
38	○			○			a2		○						○		○						○		
Cl	○						a2		○						○		○						○		
fl*	○						a1		○						○		○						○		
40	○						a1		○						?		○						○		
41	○						a2								○		○						○		
1	○						a2								○		○								
2*	○																○						○		
35*	○																○								○
39																	○								
XIV : 6																	○				○				
6				○	○			○										○				?		○	○
8				○	○					○								○				?		○	○
10				○	○									○				○				?		○	○
11				○	?			○								○						○		○	○
12		○		○	○									○											○
14	○	○		○	○			○								○				○			○		
15	○	○		○	○									○				○				○		○	
16	?			○	○					○			○					○				?		○	
17				○	○															○		○			○
18													○							○		○			○
20			○											○				○			○				
21										○			○							○			○		
22		○			○											○		○				○			
24		○			○					○			○					○				○			
26		○		○	○									○								○			
27		○	○	○	○																	○			
28		○								○													○		?
30		○								○										○			○		
37	○														○			○			○				
5			○										○				○			○		○			
9	○																?			○		?			
13	○	○										?	○	○						○		○			
32		○												○			?			○		○			

チェックリスト 3 ソナタ形式 緩徐楽章					観察レベル		large										middle							
																	E							
					観察要素		[G]						[H]				[G]		[H]					
							項目番号		(1)			(2)			(3)			(4)		(5)		(6)		
年代区分	作品番号 Hob. XV:	作品の真作性	楽譜の信頼性	チェック項目			3/4	1/4	6/8	モデル			EDRのつり合い			調の構成プラン			モデル(表8)		最初のAMPの位置			
				伝承による 成立年代データ	以降	(頃)				以前	: E : DR	EDR	: E : DR NK	E < D > R	E > D < R	E > D > R	I - V - I	I - V - (x) - I	I - V ~ I	H	I	P内	PT間	S,K
第一楽章	初期	37	C	c			1766	68				○				○								○
		XIV:CI	C	c			1767		23		○				○								○	
	後期	5	A	a			1784	69				○						○				○		
		9	A	a		1785		66					○		○				○	○			○	
中間楽章	初期	41	B	b			1767		28			○				○			○					○
		39	C	c			1766					○				○					○			
		XIV:6	C	c			1766		25							○			○				○	
	後期	12	A	a	1788		1789			85			○				○			○			○	
		16	A	a		1790				55			○	○			○			○	○			
		19	A	a	1791		1794	49					○				○				○			○
		22	A	a		1794?	1795						○				○				○			○
		23	A	a	1791		1795	56					○				○			○			○	○
		26	A	a	1791		1795	44					○				○			○			○	○
		28	A?	a?			1797	65					○				○			○			○	○

	middle		small										middle			small		middle						
	E		P						T				S	R		NK		D						
	[R]		[G]		[S]				[H]		[M]		[G]	[G]		[G]	[H]	[H]	[M]					
	(7)		(8)		(9)		(10)				(11)		(12)		(13)	(14)		(15)	(16)		(17)	(18)		(19)
作品番号 Hob. XV:	同一伴奏モチーフ保続	伴奏リズムの変化	モデル (表8)		VIとクラヴィーアの交替	クラヴィーア主旋律	P内での変化			転調経過		素 材		後半推移的	モデル		変奏を含む	付加的(RKのあと)	挿入的(RKの中)	転調を含む	第3次調		素材E内と同じ配列	単一素材
			D	a b(a) i v			楽 器	強 弱	書 法	v V	その他	<P	その他		完全再現	P 欠 落					vi	その他		
37	○				○		○		○		○						○			○		○		
XIV:CI		○				○									○									
5		○	D2					○	○	○		○	○											
9		○				○			○			○	○				○		○					
41	○					○			○			○								○		○		
39	?								○		○					○								
XIV:6	?					○			○		○					○								
12		○	D1			○			○		○		○	○										
16		○			○	○							○				○	○					○	
19		○		○		○							○				○						○	
22	○		D1			○			○		○		○				○						○	
23		○	D1			Solo			○		○						○	○					○	
26		○		○		○		?	?		○						○	○						
28	○					Solo											○							

チェックリスト 4 ソナタ形式急速楽章 (フィナーレ)					観 察 レ ベ ル		large										middle					
																	E					
					観 察 要 素		[G]			[H]			[R]		[G]		[H]					
項 目 番 号		(1)			(2)			(3)			(4)		(5)		(6)							
年 代 区 分	様 式 グ ル ー プ	作 品 番 号 Hob. XV:	作 品 の 真 作 性	楽 譜 の 信 頼 性	チェック項目 伝承による 成立年代データ			拍子と小節数			モデル		調構造モデル			同 一 旋 律 リ ズ ム の 保 持	モデル(表8)		最初のAMPの位置			
																						～以降
初 期	1	36	B?	b?			1767		40		○		○			○					○	
		1	A?	a?			1766	111			○		○			○			○			
		41	B	b			1767		82		○		○			○			○			
	2	38	C	c			1767			98	○		○						○			
		fi*	B	b			1760			106	○			○				○		○		
		40	C	c			1766			99	○			○				○		○		
		35*	B	b		c.1764	1771		108	○		○						○		○		
	3	39	C	c			1766			44	○		○								○	
		XIV:CI	C	c			1766			38	○		○								○	
後 期		14	A	a			1790			267	○				○				○			
		17	A	a		1790			120		○		○							○		
		19	A	a	1791		1794					○			○						○	
		21	A	a	1791		1795			193					○				○			
		22	A	a		1794?	1795		186		○					○			○		○	
		23	A	a	1791		1795		171			○		○				○		○		
		27	A?	a?			1797			261	○					○			○			
		29	A?	a?			1797		321			○			○				○			

	middle			small		middle		small			middle									
	E			P		R		RP	RK	NK	D									
	[R]			[M]		[G]		[G]	[G]	[G]	[G]		[H]							
	(7)		(8)	(9)	(10)		(11)		(12)	(13)	(14)		(15)		(16)		(17)			
作品番号 Hob. XV:	同一伴奏リズム保持	伴奏リズム変化	旋律リズム単位変化	Pa=Pb	伴奏形		モデル(表8)		くり返し省略	付加拡大	付加(RKのあと)	挿入(RKの中)	モデル(表8)		開始調		第3次調			
						その他	f	完全再現					C	D	Sの調I度	他調のV度	なし	カデンツのみ	安定	2種
36																				
1																				
41															?					
38																				
fl*																				
40																				
35*																				
39																				
XIV:CI																				
14																				
17																				
19																				
21																				
22																				
23																				
27																				
29																				

チェックリスト 5 急速な Rond 形式の フィナーレ Rond、変奏混合形 式の緩徐第 1 楽章					観 察 レ ベ ル		large										middle							
																	E ⁿ (ロンド・ テーマ)		N (エビ ソード)		(コーグ) NK			
					観 察 要 素					G	H			M			R	S	G			G	G	
項 目 番 号					(1)	(2)			(3)			(4)	(5)			(6)	(7)	(8)	(9)	(10)				
	年 代 区 分	作 品 番 号 Hob. XV:	作 品 の 真 作 性	楽 譜 の 信 頼 性	チェック項目 伝承に よる成立 年代データ			モデル E ¹ N E ² 2N E ⁿ K E ¹ N E ² 2N E ³ N		調構成プラン 安定調の種類 2種 3種 4種			素材の種類 1種 2種 3種			基礎 リズムの 細分化	音色の対比 大きい部分			くり 返し 省略	拡 大	変 奏	くり 返し 記号 なく 推移 的	2 N K がある
																	1N	2N	1N と 2N					
					以降	(頃)	以前																	
急 速	後 期	7	A	a		1785		○		○			?			○	○			?	○			
		12	A	a	1788		1789	○			○			○		○		○	○	○	?	○		
		15	A	a		1790		○			○				?		○		○		○	○		
		16	A	a		1790		○			○					○		○				○		
		25	A	a	1794		1795			○				○		○		○		○		○		
緩 徐		25	A	a	1794		1795		○		○			○		○				○				
		31	A	a		1795			○		○			?		○		○	○	○	?			

チェックリスト 6 変奏形式楽章					観 察 レ ベ ル		large							middle							
														E°(変奏主題)		E ⁿ (変奏)		NK			
					観 察 要 素		[G]		[H]	[M]		[R]	[S]	[G]		[S]	[G]	[S]			
					項 目 番 号		(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		(8)	(9)	(10)	(11)		
	年 代 区 分	作 品 番 号 Hob. XV:	作 品 の 真 作 性	楽 譜 の 信 頼 性	チェック項目 伝承による成立年代データ ~以降 ~ (頃) ~以前			モ デ ル			調 プラン I-i	素 材 の 関 連 E=N	低 音 進 行 不 変	リ ズ ム 単 位 の 細 分 化	主 楽 器 の 交 替	モデル		クラ ヴィ ー ア 中 心	調 と 小 節 構 造 と テン ポ の 変 化	対 旋 律 付 加	N K が あ る
								E°E¹.....E°	E°E¹.....E°NK	E°N°.....(主題) (1)						Pa b b c (a)	Pa b T 2P (b)				
終 楽 章	初 期	C1	C	c			1766	○					○	○							
		2*	A	a	1767		1771	○					○	○		○					
		42	C	c			1766	○						○	○						
第 一 楽 章	後 期	7	A	a		1785		○						○	○	○		○			
		13	A	a	1788		1789			○	○	○		○	○		○	○			
		19	A	a	1791		1794			○	○	○		○			○	Solo	○		○
		23	A	a	1791		1795			○	○			○			○			○	○
		20	A	a	1791		1794		○					○				Solo		○	○
中間 楽章																					

チェックリスト 7 メヌエット・トリオ楽章					観 察 レ ベ ル	large					middle											
											E(Menuett)					N(Trio)						
						観 察 要 素					[H]		[M]	[R]	[S]	[G]	[H]	[S]	[G]	[H]	[M]	[S]
項 目 番 号					(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)						
年 代 区 分	様 式 グ ル ー プ	作 品 番 号 Hob. XV:	作 品 の 真 作 性	楽 譜 の 信 頼 性	チェック項目 伝承に よる成立 年代データ	メヌエットと トリオの調関係			M→T モ テ ィ ー フ 関 連	M→T リ ズ ム 単 位 の 変 化	M→T 楽 器 変 化	モデル		調 的 な 動 き を 含 む	Cemb. (右) が 主 旋 律	VI と Cemb. (右) が 主 旋 律	モデル		調 的 な 動 き を 含 む	モティー フの種類		ヴァ イ オ リ ン 主 旋 律 チェン バ ロ 伴 奏 音 型
						同 主 調	平 行 調	同 調				$\parallel : a \parallel : b c \parallel$ $\parallel : a b \parallel : c d e \parallel$	$\parallel : a \parallel : b c \parallel$ $\parallel : a b \parallel : c d \parallel$				1種	2種				
初 <																						

チェックリスト 8 (複合) 3部形式 急速楽章					観 察 レ ベ ル		large																				
					観 察 要 素		G				R				H				M		S						
					項 目 番 号		(1)		(2)				(3)		(4)		(5)				(6)		(7)				
年 代 区 分	様 式 グ ル ー プ	作 品 番 号 Hob. XV:	作 品 の 真 作 性	楽 譜 の 信 頼 性	チェック項目			拍子と小節数			モ デ ル				メヌエットの表示	リズム単位の細分化		E と N の 調 関 係				E と N の モ テ ィ ー フ 関 連	E と N の 音 色 変 化				
					伝承による 成立年代データ			3/8	3/4	2/4	E: N: d.c.	E: N: R:	E: N: 2NT R' 3NK	E: NT R:		E→N	E→R	同主調	平行調	下属調	同調						
					～以降	～(頃)	～以前																				
初 期	1	34*	B	b			1760	111																			
		36	B?	b?			1767		70																		
	2	39	C	c			1766			24																	
		XIV: C1	C	c			1767	38																			
後 期		6	A	a		1784			148								○	○	○	○				○	○		
		8	A	a	1784		1785		148								○	○	○	○				○	○		
		10	A	a			1785														○			○	○		
		11	A	a	1788		1789		162								○	○				○			○	○	
		20	A	a	1791		1794		124									○	○	○	○				○	○	
		24	A	a	1791		1795		59		○										○				○	○	
		26	A	a	1791		1795		135								○			○	○				○	○	
		31	A	a		1795			125									○	○				○			○	○
		28	A?	a?			1797		159									○		○	○				○	○	
		30	A	a		1796			204										?		○					○	○

middle														
E					R					N				
G					S					2NK				
(8)					(9)					(10)				
(11)					(12)					(13)				
(14)					(15)					(16)				
(17)					(18)					(19)				
(20)					(21)					(22)				
作品番号 Hob. XV:	モデル				PfとVIが主旋律	くり返し略	二重変奏	変奏を含む	旋律リズム単位細分化	伴奏リズム単位細分化	楽器変化	音高変化	対旋律付加	素材の由来
	(=ab) :ab :c d e	(=a) :a :b c d	(a) :a :b c	(a) :a :b c										
34*	○													
36	○													
39														
XIV: C1														
6	?						○	○	○				○	○
8		○				○		○	○				○	○
10		○				○							○	○
11						○	○	○			○	○	○	○
20		○				○	○	○	○		○		○	○
24			○		○								○	○
26		○			○								○	○
31						○	○	○	○				○	○
28		○			○			○				○	○	○
30			○		○		○	○				○	○	○

チェックリスト 9 (複合) 3 部形式 緩徐楽章					観 察 レ ベ ル		large											
					観 察 要 素		[G]			[H]	[M]	[R]		[S]				
					項 目 番 号		(1)		(2)			(3)	(4)	(5)		(6)		
	年 代 区 分	作 品 番 号 Hob. XV:	作 品 の 真 作 性	楽 譜 の 信 頼 性	チェック項目 伝承による 成立年代データ			拍子と小節数		モ デ ル			E と N 同 主 調	E と N モ チ ー フ 関 連	リズム単位の細分化		EとN音色の対比	
								%	¾	E N R 2NK	≡ E ≡ N ≡ 2NTR 3NK	≡ E ≡ N ≡ R (2NK) ≡			E→N	E→R	楽 器	強 弱
					～以降	～(頃)	～以前											
第 1 楽章	中 間 楽 章 後 期	32	A	a?	1792		1794	158		○			○	○		○	○	
		14	A	a			1790		60		○		○	○	○		○	
		15	A	a		1790		66				○	○	○	○		○	
		18	A	a	1791		1794	53				○	○	○	○		○	
		21	A	a	1791		1795			○				○			○	
		24	A	a	1791		1795	32							○		○	
		25	A	a	1794		1795		64		○			○			○	
		27	A?	a?			1797	71		○			○			○	○	
		30	A	a		1796							?			○	○	

		middle										
		E		R				N	2NK			
		[S]		[G]		[S]		[G]	[G]	[M]		
		(7)		(8)	(9)	(10)			(11)	(12)	(13)	
作品番号 Hob. XV:	Pf 主 旋 律	VI 主 旋 律・ Pf 伴 奏 型	Pf と VI 主 旋 律	変 奏 を 含 む	後 半 推 移 部 へ と 変 化	音色変化			モデル a b c ……(推移的)	2 N K が あ る	素 材 の 由 来 R	
						楽 器	音 高	対 旋 律 付 加				
32	○			○		○				○	○	○
14		○			○							
15	○	○		○							○	○
18	○	○		○		○						
21		○								○	○	○
24			○	○	○	○	○	○	○	○		
25	○		○	○		○		○	○	○	○	○
27	○		○	○	○	○		○	○	○		
30			○	○				○	○	○	○	

表 8 モデル一覧表

E(R)モデル	
A	A1 $a=b$ r r A2 $a=b$ r r $((P))$ A3 $a=b$ $r(h)$
	B
C	C1 rh r $=P$ C2 rh r $=P$
	D C3 rh $=P$
E	
F	

G	
H	
I	

D モデル	P モデル
A	A
B 他調によるPの再現 (疑似再現)を含む	B
C	C
D	D1 D2

表 9 各レベルのグルーピングと総合的グルーピング

レベル	cyclic	large-middle-small dimension								総 合	
IV 章 の項	1	2.1	2.3 2.4	2.5	2.6, 2.7	2.8, 2.9,	2.11	2.12	2.14		
初 期	37	36		36		C1 2* 42	37 34* C1 38 40 41 f1* 1 35* 2*	34* 36		37 36 34* 38 C1	1
	36	34*		1						f1*	
	38	38		41						40 41	
	f1*	C1		38 f1* 40 35*						1	
	34*	f1*								2* 35*	
	C1	40								XIV:C1 39 XIV:6 42	2
	2*	41									
	41	1									
	40	2*									
	1	35*									
後 期	35*										
	XIV:C1										
	39	39									
	XIV:6	XIV:6									
	42										
	5		5							5	3
	6	6								6	
	7	8								7	
	8	10	9							8	
	9	11								9	
	10	12						6		10	4
	11				7	7				11	
	12							8		12	
	13				12	13			14	13	
	14	14						10		14	
	15	15		14	15	19			15	15	5
	16	16	12	17	16	23		11	18	16	
	17	17		19	25			20	21	17	
	32		16							32	
	18		19					24		18	6
	19	18		21					24	19	
	21	20	22	22				26	25	21	
	23	21	23	23				31	27	23	
	25									25	
	20		26					28	30	20	7
	22	22		27						22	
	24	24	28	29				30		24	
	26	26								26	
	27	27								27	
	28	28								28	8
	29	30								29	
	30									30	
	31									31	

表 10 様式と年代、真作性の関係

Eは初版での曲組を示す

様式グループ		伝承による年代データ		推 定	作品の真作性
		上 限	確 定 (c.推定?)		
1	37		1766	~1760	C
	36		1767		B ?
	34*		1760		B
	38		1767		C
	C1		1766		C
1	f1*		1760		B
	40		1766		C
	41		1767		B
	1		1766		A ?
1	2*	1767	1771	1767~1771	A
	35*	c.1764	1771	c.1764	B
2	XIV:C1		1767		C
	39		1766		C
	XIV:6		1766		C
	42		1766		C
3	5		1784	c.1784~1785	A
	6	1784			A
	7	1785			A
	8		1785		A
	9	1785			A
	10		1785		A
	11	1788		1788~1789	A
	12	1788	1789		A
	13	1788	1789		A
	14		1790		A
4	15	1790		1790	A
	16	1790			A
	17	1790		1792~1794 ?	A
	32	1792 ?	1794		A
5	18	1791	1794	c.1794	A
	19	1791	1794		A
	21	1791	1795	c.1794~1795	A
	23	1791	1795		A
	20	1791	1795		A
	25	1794	1795		A
	22	1794 ?	1795		A
	24	1791	1795	c.1794~1796	A
	26	1791	1795		A
	27		1797		A ?
	28		1797		A ?
	29		1797		A ?
6	30	1796			A
	31	1795			A